

令和元年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
AO入試・国際総合入試・帰国子女入試の合格発表
大学入試センター試験，本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定
人間知・脳・AI研究教育センター設立記念シンポジウムを開催



■ 全学ニュース

- 1 令和元年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
- 2 AO入試合格者の発表
- 2 国際総合入試合格者の発表
- 3 帰国子女入試合格者の発表
- 4 大学入試センター試験、本学一般入試個別学力検査等実施体制等の決定
- 7 西井理事・副学長が第11回日中学長会議に出席
- 8 Japan PIO Summit 2019を開催
- 9 北大フロンティア基金
- 11 医療法人萬田記念病院に紺綬褒章が授与
- 11 北大フロンティア基金「平成30年台風21号及び北海道胆振東部地震『キャンパス復興支援』」実施事業報告
- 12 新渡戸カレッジ特別講演会「ビジネスによるSDGsの取組と、みなさんに引き継ぎたい世界」を開催
- 12 「北経連・四経連・道経連・経団連共催マッチング・ワークショップ」に参加
- 13 北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行政
- 14 高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催
- 15 情報基盤センターが「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を共催
- 15 研究成果を事業化へ～「第9回おおた・研究開発フェア」に出展～
- 16 博士人材と企業の情報交換会 第40回「赤い糸会&緑の会」を開催

■ 部局ニュース

- 17 人間知・脳・AI研究教育センター設立記念シンポジウム ～意識の科学の冒険——哲学・脳科学・AI・ロボット研究のクロスオーバー～を開催
- 18 法学部同窓会寄附講演会を開催
- 19 経済学部が公認会計士・監査審査会会長の特別講演会を開催
- 20 経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
- 21 医理工学院で第3回学生研究発表会及び第3回企業との交流会を開催
- 21 第14回医学研究院連携研究センター研究成果発表会を開催
- 22 スイス連邦工科大学との学術交流シンポジウムを開催
- 23 工学系部局で救急救命講習会を実施
- 24 工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
- 25 農学研究院で第13回Sapporo Alumni Lecturesを開催
- 26 第16回北海道大学病院指導医のための教育ワークショップ（指導医講習会）を開催



第11回日中学長会議集合写真



総長奨励金給付証書・私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式

- 27 川島成道氏と佐藤勝重氏による「北大病院ミニコンサート」を開催
- 28 北海道大学病院で令和元年度地域連携懇話会を開催
- 28 メディア・コミュニケーション研究院公開講座「軍の記憶と戦後」が終了
- 29 国際シンポジウム・講演会「美麗島事件と光州事件からみる『アジア連帯』」を開催
- 30 美唄市との共同プロジェクト「やさしい日本語を使った美唄市民との交流会」を実施
- 31 令和元年度低温科学研究所公開講座「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」が終了
- 31 理学研究院で消防訓練を実施
- 32 薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行政
- 32 スポーツチャンバラ世界選手権大会で本学職員及び学生が活躍
- 33 北方生物圏フィールド科学センターで「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催
- 35 天塩研究林で「ヒグマしり隊！～問寒別のヒグマを知ろう～」を開催
- 36 和田修一氏の旧蔵資料を大学文書館で受贈

■ 諸会議の開催状況 37

■ 学内規程 37

■ 研修

- 37 令和元年度北海道大学教務事務実務研修

■ 表敬訪問 38

■ 人事 39

- 39 新任教授紹介

■ 訃報

- 40 教授 秋山 友宏 氏
- 40 名誉教授 木村 汎 氏

■ 資料

- 41 令和元年度外国人留学生数（令和元年11月1日現在）
- 42 令和元年度国別外国人留学生数（令和元年11月1日現在）
- 43 北大時報掲載記事事項別一覧（令和元年掲載分）



人間知・脳・AI研究教育センター設立記念シンポジウム



博士人材と企業の情報交換会 第40回「赤い糸会&緑の会」



ひらめき☆ときめきサイエンス 雨龍研究林



高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」

表紙：美唄市との共同プロジェクト「やさしい日本語を使った美唄市民との交流会」を実施（関連記事30頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景⑨ 雪晴れの森を駆ける

■ 全学ニュース

令和元年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏

本年度の医学教育等関係業務功労者として、本学から北海道大学病院看護部副看護師長 棚田郁子氏、医学研究院技術支援部臨床検査技師 津田弓子氏が表彰され、11月15日（金）、文部科学省3階講堂において、表彰式が行われました。

この表彰は、文部科学省が毎年、医学または歯学に関する教育・研究若しくは患者診療等の補助的業務に従事し、顕著な功労のあった方々に対して行うものです。

各氏の表彰にあたっての感想を紹介します。

（総務企画部広報課）



北海道大学病院 看護部
副看護師長

たなだ いくこ
棚田 郁子 氏



医学研究院技術支援部
臨床検査技師

つだ ゆみこ
津田 弓子 氏

11月15日（金）、文部科学省にて、医学教育等関係業務功労者表彰式に出席させていただき、105名の方たちと共に表彰を受けて参りました。身に余る賞をいただき深く感謝申し上げます。

私は、平成4年の入職から28年間勤務させていただきました。スタートは当時の北大病院登別分院でした。平成8年に閉院となるまで、地域に根ざした糖尿病治療とリハビリの施設でしたが、ここでの看護経験は、新たな糖尿病治療はもとより、病状・体力に合わせたトラック歩行やハイキング等の屋外運動療法をとおして、運動が血糖値に及ぼす影響を患者自身が体験するための支援であり、それまでの自身の糖尿病看護の認識を大きく変えるものでした。自覚症状が乏しく進行する糖尿病だからこそ結果を数値で可視化し、患者さんと共有する、またその意味を分かりやすく伝え理解を促す支援の重要性を学びました。

その後、内科Ⅱ病棟の7年間では、患者さんが具体的な目標を持ち主体的に行動できる様に、熱心に関わる同僚らの姿があり、患者さんの望ましい行動の変化を誰よりも喜び、チームで共有していました。医師・薬剤師・栄養士・検査技師・理学療法士・歯科衛生士など、各職種の専門性の高さに強く刺激され、糖尿病療養指導士、フットケアの資格を取得し、医科外来ナースセンターへ異動後はこれらの実践を重ね、充実した日々となりました。後に「糖尿病ケアサポートチーム」として院内活動を行うようになりましたが、チームメンバーは何時も自分をブラッシュアップさせてくれる大きな存在でした。そして、患者さんが葛藤しながら投げかけてくれた糖尿病への思いの数々が、何にも代え難い私の学びとなりました。

最後になりましたが、これまでご指導いただきました諸先輩、歴代の看護部長、副看護部長、看護師長、同僚の皆様心から感謝申し上げます。

（北海道大学病院）

この度は医学教育等関係業務功労者として表彰を賜り、身に余る栄誉と深く感謝申し上げます。表彰にあたり、ご推薦、ご尽力いただきました関係各位の皆様心より厚くお礼申し上げます。

28年前に医学部内科学第三講座に採用された時は、臨床の現場で患者の命に向き合う医師の姿を目の当たりにし、出来るだけ要望に応えようとしました。治験や保険点数のない特殊検査に関する業務、そしてたくさんの臨床サンプルの管理など。医局、病棟、外来、検査室を飛び回る毎日でした。しかし、自分のスキルが限られているため、思うようにいかないことも多くありました。そのような中、何度も先生や同僚に助けられ、励まされたことは忘れられません。

次に医歯学総合研究棟中央研究部門に配属されました。この部門は医学研究院と歯学研究院における共同研究施設で、一つの教室では維持するのが難しい実験機器を多数設置しています。それらの機器を管理運用するのが仕事ですが、機器が故障して研究者の実験が滞ることが一番つらいです。また、分析装置は日々、開発が進み新しくなっていますので、勉強が欠かせないのですが、未熟なため反省することも多いです。それでも担当の分析装置などを通じて、様々な教室の研究者の方とお話することは、刺激を受けますし、充実した時間となっています。

最後になりますが、私がこれまで仕事を続けることが出来、この功労者表彰を受賞出来たのは、講座、部門の先生、職員の方々の温かいお力添えがあつてのものと、深く感謝申し上げます。これを励みに今後も業務の遂行に精進してまいります。ありがとうございました。

（医学部）

AO入試合格者の発表

令和2年度AO入試は、募集人員54名に対し、103名の出願がありました。自己推薦書、個人評価書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月24日（日）に第2次選考の課題論文と面接試験を実施し、12月10日（火）に合格者発表が行われ、22名が合格しました。

なお、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表は、2月12日（水）を予定しています。

（学務部入試課）

令和2年度AO入試合格者数等一覧

学部・学科等			募集人員	志願者数	倍 率	合格者数
理学部地球惑星科学科			5	22 (4)	4.4	5 (1)
医学部	医学科		5	5 (3)	1.0	センター試験を課す
	保健学科	看護学専攻	7	22 (10)	3.1	センター試験を課す
		作業療法学専攻	4	7 (3)	1.8	センター試験を課す
歯学部			5	8 -	1.6	3 -
工学部	応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)		4	4 (1)	1.0	センター試験を課す
	環境社会工学科 (社会基盤学コース)		4	- -	-	センター試験を課す
水産学部			20	35 (5)	1.8	14 (1)
計			54	103 (26)	1.9	22 (2)

※ () 内の数字は、道内高校出身者で内数。

国際総合入試合格者の発表

国際総合入試は、「北海道大学近未来戦略150」に掲げるグローバル人材の育成のため、国や地域、学問分野を超えたボーダーレスなグローバル社会を生き抜き、リードする意欲と資質を持った人材を人物本位で選抜することを目的として平成30年度入試から導入したもので、主な対象者を国際バカロレア資格の取得者等としています。

令和2年度国際総合入試は、募集人員15名に対し、34名の出願がありました。自己推薦書、志望理由書等の出願書類による第1次選考合格者に対して、11月24日（日）に第2次選考の面接試験を実施し、12月10日（火）に合格者発表が行われ、15名が合格しました。このうち、10名は国際バカロレアの最終スコアが1月に発表のため、条件付合格となっています。

なお、条件付合格者の最終合格発表は、2月12日（水）を予定しています。

（学務部入試課）

令和2年度国際総合入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数 (条件付合格者含む)	最終合格者数
総合入試	文系	5	17 (7)	3.4	5(4) [5(4)]	
	理系	10	17 (7)	1.7	10(5) [5(2)]	
計		15	34 (14)	2.3	15(9) [10(6)]	

※ () 内の数字は、女子で内数。

※ [] 内の数字は、条件付合格者数で内数。

帰国子女入試合格者の発表

令和2年度帰国子女入試は、11学部・61名の出願がありました。出願書類による第1次選考合格者に対し、11月24日（日）に第2次選考の課題論文等と面接試験を実施し、12月10日（火）に合格発表が行われ、9名が合格しました。

（学務部入試課）

令和2年度帰国子女入試合格者数等一覧

学部・学科等			募集人員	志願者数	合格者数	
文学部			若干名	2 (2)	0 -	
教育学部				2 (2)	0 -	
法学部				5 (3)	1 (1)	
経済学部				9 -	0 -	
理学部	数学科			1 (1)	1 (1)	
	物理学科			3 (1)	2 -	
	化学科			1 -	0 -	
	生 物 科学科	生物学専修分野		2 (2)	0 -	
		高分子機能学専修分野		- -	- -	
	地球惑星科学科			- -	- -	
医学部	医学科			5 (3)	0 -	
	保健 学科	看護学専攻		1 -	0 -	
		放射線技術科学専攻		- -	- -	
		検査技術科学専攻		- -	- -	
		理学療法学専攻		1 (1)	0 -	
		作業療法学専攻		- -	- -	
		歯学部			1 (1)	0 -
薬学部				2 (2)	0 -	
工学部	応用理工系学科			3 (1)	0 -	
	情報エレクトロニクス学科			5 -	2 -	
	機械知能工学科			7 (1)	3 -	
	環境社会工学科			5 (3)	0 -	
農学部				2 (1)	0 -	
獣医学部				4 (4)	- -	
水産学部				- -	- -	
計					61 (28)	9 (2)

※（ ）内の数字は、女子で内数。

大学入試センター試験，本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定

11月26日（火）開催のアドミッションセンター試験場部会拡大会議において，令和2年度大学入試センター試験及び本学一般入試個別学力検査等に係る実施体制等を決定しました。

なお，大学入試センター試験については，藤女子大学，天使大学，東海大学札幌キャンパス，北海道武蔵女子短期大学との共同実施となります。

主な事項は，次のとおりです。

（学務部入試課）

大学入試センター試験

1 実施本部の設置

試験実施について総括し，連絡・調整するため実施本部を設け，その下に総務部，試験場部，救急医療部，連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

（札幌市）

試験場・会場	試験場所	担当学部等
北海道大学試験場		
農学部会場	農学部	農学部
人文・社会科学総合教育研究棟会場	人文・社会科学総合教育研究棟	※経済学部・法学部
理学部会場	理学部	理学部
工学部会場	工学部	工学部
高等教育推進機構A会場	高等教育推進機構E棟2階	※文学部・教育学部
高等教育推進機構B会場	高等教育推進機構E棟3階	※歯学部・薬学部
保健科学研究所会場	保健科学研究所	※獣医学部・医学部
高等教育推進機構N会場	高等教育推進機構N棟	実施本部・武蔵女子短大
藤女子大学試験場	藤女子大学	※藤女子大学・天使大学・東海大学

※は，複数学部で担当する試験場の主担当学部

（函館市）

試験場	試験場所	担当学部
北海道大学水産学部試験場	水産学部	水産学部

なお，監督者説明会を令和2年1月7日（火）及び1月10日（金）に学術交流会館で開催しますので，監督者等となった方はいずれか一方に必ず出席願います。

本学一般入試個別学力検査等

1 実施本部の設置

試験実施について総括し、連絡・調整するため実施本部を設け、その下に総務部、出題部、採点部、試験場部、救急医療部、連絡部及び広報部を置く。

2 試験場及び担当学部

前期日程

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
第1試験場（農 学 部）	農 学 部	農 学 部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※教 育 学 部 ・ 文 学 部
第3試験場（理 学 部）	理 学 部	理 学 部
第4試験場（工 学 部）	工 学 部	工 学 部
第5試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階）	高等教育推進機構E棟1階、2階	※医 学 部 ・ 獣 医 学 部
第6試験場（高等教育推進機構E棟3階）	高等教育推進機構E棟3階	※薬 学 部 ・ 歯 学 部
第7試験場（保健科学研究所）	保 健 科 学 研 究 院	※法 学 部 ・ 経 済 学 部
第8試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高等教育推進機構N棟2階	実 施 本 部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

（上記8試験場で受験者を収容できない場合、別の試験場を設けることがある。）

（第5試験場は、高等教育推進機構大講堂、N1、N2、高等教育推進機構S講義棟の教室を含む。）

（第5試験場の2日目は医学部が担当する。）

後期日程

試 験 場	試 験 場 所	担 当 学 部
第1試験場（農 学 部）	農 学 部	農 学 部
第2試験場（人文・社会科学総合教育研究棟）	人文・社会科学総合教育研究棟	※経 済 学 部 ・ 法 学 部
第3試験場（理 学 部）	理 学 部	理 学 部
第4試験場（薬 学 部）	薬 学 部	薬 学 部
第5試験場（高等教育推進機構N棟）	高 等 教 育 推 進 機 構 N 棟	歯 学 部
第6試験場（工 学 部）	工 学 部	工 学 部
第7試験場（高等教育推進機構E棟1階、2階）	高等教育推進機構E棟1階、2階	※文 学 部 ・ 教 育 学 部
第8試験場（獣 医 学 部）	獣 医 学 部	獣 医 学 部
第9試験場（高等教育推進機構E棟3階）	高 等 教 育 推 進 機 構 E 棟 3 階	医 学 部
第10試験場（水 産 学 部）	水 産 学 部	水 産 学 部
第11試験場（高等教育推進機構N棟2階）	高 等 教 育 推 進 機 構 N 棟 2 階	実 施 本 部

※は、複数学部で担当する試験場の主担当学部

なお、監督者説明会を前期日程は令和2年2月18日（火）及び2月20日（木）、後期日程は3月5日（木）及び3月10日（火）に高等教育推進機構大講堂で開催しますので、前期日程又は後期日程において、監督者等となった方はいずれか一方に必ず出席願います。

令和2年度入試実施日程表

種 類		出 願 期 間 等	選 考 期 日 (試 験 日)		合格発表日	入学手続期間	選 考 方 法
A O 入 試	大学入試センター試験を課さない (理学部 (地球惑星科学科), 歯学部, 水産学部)	学生募集要項公表 R 1. 5. 28(火) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 1. 10. 3 (木) ～10.10(木)	第 1 次選考	書類選考	R 1. 11. 8 (金)	R 1. 12.13(金) ～12.18(水)	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し, 課題論文等及び面接を課する。
	第 2 次選考		R 1. 11.24(日) 課題論文, 面接	R 1. 12.10(火)			
	大学入試センター試験を課する (医学部 (医学科, 保健学科 (看護学専攻, 作業療法学専攻)), 工学部 (応用理工系学科, 環境社会工学科))		第 1 次選考	書類選考	R 1. 11. 8 (金)	R 2. 2. 13(木) ～ 2.19(水)	個別学力検査を免除し, 大学入試センター試験, 課題論文等及び面接を課する。
			第 2 次選考	R 1. 11.24(日) 課題論文, 面接	R 2. 2. 12(水)		
			大学入試センター試験	本試験 R 2. 1. 18(土) ～ 1.19(日)			
国際総合入試		学生募集要項公表 R 1. 5. 28(火) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 1. 10. 3 (木) ～10.10(木)	第 1 次選考	書類選考	R 1. 11. 8 (金)	R 1. 12.13(金) ～12.18(水) ただし, 条件付合格の場合の最終合格発表 R 2. 2. 12(水)	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し, 面接を課する。
		第 2 次選考	R 1. 11.24(日) 面接	R 1. 12.10(火)			
帰国子女入試		学生募集要項公表 R 1. 5. 28(火) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 1. 10. 3 (木) ～10.10(木)	第 1 次選考	書類選考	R 1. 11. 8 (金)	R 1. 12.13(金) ～12.18(水)	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し, 課題論文等及び面接を課する。
			第 2 次選考	R 1. 11.24(日) 課題論文(総合問題), 面接	R 1. 12.10(火)		
大学入試センター試験		受験案内公表 R 1. 9. 2 (月) ～公表中 出願期間 R 1. 9. 30(月) ～10.10(木)	本試験	R 2. 1. 18(土) ～ 1.19(日)	※本試験が実施できなかった場合に行う。		
			※再試験	R 2. 1. 25(土) ～ 1.26(日)			
一般入試	前期日程	学生募集要項公表 R 1. 10. 4 (金) ～公表中	第 1 段階選抜	センター試験の成績による (志願者が多い場合)	R 2. 2. 12(水)	R 2. 3. 10(火) ～ 3.15(日) ただし, 来学する場合は R 2. 3. 13(金) ～ 3.15(日)	大学入試センター試験及び個別学力検査等を課する。
			第 2 段階選抜	R 2. 2. 25(火) 個別学力検査 R 2. 2. 26(水) 面接(医学部医学科)	R 2. 3. 7 (土)		
	後期日程	出願期間 R 2. 1. 27(月) ～ 2. 5 (水)	第 1 段階選抜	センター試験の成績による (志願者が多い場合)	R 2. 2. 28(金)	R 2. 3. 23(月) ～ 3.27(金) ただし, 来学する場合は R 2. 3. 26(木) ～ 3.27(金)	大学入試センター試験及び個別学力検査等を課する。
			第 2 段階選抜	R 2. 3. 12(木) 個別学力検査等	R 2. 3. 20(金祝)		
私費外国人留学生 (学部) 入試		学生募集要項公表 R 1. 10. 1 (火) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 1. 12.26(木) ～ R 2. 1. 6 (月)	第 1 次選考	書類選考	R 2. 1. 28(火)	R 2. 3. 10(火) ～ 3.15(日) ただし, 来学する場合は R 2. 3. 13(金) ～ 3.15(日)	大学入試センター試験を免除し, 各学部が指定する「第 2 次選考の実施科目等」及び日本留学試験を課する。
			第 2 次選考	R 2. 2. 14(金) 小論文 (総合問題), 面接	R 2. 3. 7 (土)		
令和 3 年度 私費外国人留学生 (現代日本学プログラム課程) 入試 (令和 3 年 4 月入学)	第 1 期募集	学生募集要項公表 R 1. 8. 6 (火) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 1. 10.25(金) ～11.19(火)		R 2. 1. 9 (木) ～ R 2. 1. 17(金) 書類選考, 面接	R 2. 2. 12(水)	R 3. 3 月	書類選考及び面接を課する。
	第 2 期募集	学生募集要項公表 R 1. 8. 6 (火) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 2. 1. 30(木) ～ R 2. 2. 26(水)		R 2. 4. 9 (木) ～ R 2. 4. 16(木) 書類選考, 面接	R 2. 5 月中旬		
私費外国人留学生 (Integrated Science Program (学士課程)) 入試 (令和 2 年10月入学)		学生募集要項公表 R 1. 8. 6 (火) ～公表中 インターネット出願登録期間 R 1. 11.15(金) ～12. 5 (木)	第 1 次選考	書類選考	R 2. 2. 10(月)	R 2. 3 月	書類選考及び面接を課する。
			第 2 次選考	R 2. 2. 19(水) ～ R 2. 3. 4 (水) 面接	R 2. 3. 23(月)		

(学務部入試課)

西井理事・副学長が第11回日中学長会議に出席



集合写真

11月5日（火）及び6日（水），早稲田大学において，第11回日中学長会議が開催され，西井準治理事・副学長が出席しました。日本側から23の大学・関係機関，中国側から18の大学・関係機関が集い，合計約160名が参加しました。

日中学長会議は，2000年に東京で第1回会議が開催されて以来，隔年で開催されており，両国を代表する大学の代表者が一堂に会し，大学の在り方や共通の課題について議論を行う場となっています。

第11回となる今年は，「今と未来を繋ぐために，新たな連携の扉を開く」をテーマに議論が行われました。早稲田大学田中愛治学長と北京大学王 博

副校長からの基調講演に続き，2つのセッションが行われ，グローバル化する高等教育における大学の役割と，アジアにおける協働教育・共同研究モデルについて活発な議論が展開されました。

6日の全体会合において，新たに3校（日本側は金沢大学と上智大学，中

国側は中山大学）の加盟が正式承認され，参加機関数は日本側24機関，中国側26機関となりました。

次回は2021年に中国・中山大学の主催により開催される予定です。

（国際部国際連携課）



会場の様子

Japan PIO Summit 2019を開催



集合写真（26日）

11月25日（月）～26日（火）、学術交流会館で、広報活動の評価と計測を主なテーマとしたJapan PIO* Summit 2019を開催しました。本学と米国科学振興協会（AAAS）が運営するEurekAlert!、研究大学コンソーシアム、科学技術広報研究会（JACST）の4機関が本イベントを主催し、学内外から90名を超える広報担当者、科学コミュニケーター、URA、研究者が集いました。

1日目は、黒岩麻里総長補佐（広報室）が開会の挨拶をした後、EurekAlert!のBrian Lin氏が科学コミュニケー

ションの重要性と課題について、東京大学広報戦略本部のEuan McKay氏が大学における広報組織のあり方についてそれぞれ基調講演を行いました。続いて、各機関における広報・科学コミュニケーションの取り組みを紹介するフラッシュトークを行い、さらに広報活動へのロジックモデルの導入を学ぶワークショップが開かれました。

2日目は、プレスリリースやソーシャルメディアを題材に、広報活動の効果計測と改善をテーマにした3つの発表があり、これらをテーマにしたパネルディスカッションやケーススタ



発表の様子（1日目）

ディも行われました。効果計測が有用である一方、容易に計測できない活動があることや、数値化することのリスクについても意見が交わされました。最後に、各大学等が活用できる共通の計測法とKPIの策定に向けた議論が行われ、2日間の会合が締めくくられました。

*PIOは、パブリック・インフォメーション・オフィサーの略で、広報担当者を意味します。

（総務企画部広報課）



ディスカッションの様子



コーヒーブレイクの様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（11月30日現在）

25,368件 4,979,334,262円

11月のご寄附状況

法人等12社、個人121名の方々から12,023,154円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

伊藤組土建株式会社、医療法人社団熊澤歯科、一般社団法人札幌農学同窓会、医療法人社団蘇春堂形成外科、医療法人仁愛会 朴澤歯科、医療法人社団ほり内科クリニック、宮の森歯科診療所

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	明本 康伸	東 剛己	井口 光雄	石井 哲夫	石井 寛	石山 喬	板垣 雅
伊藤 明男	井原 博	今多 将	入澤 秀次	上田 昭平	浦山 修	縁記 和也	大原 正範
近江 亮	奥田 英信	小谷 里美	小田原一史	小内 透	小野寺康博	折井 二郎	笠井 裕子
笠井 正晴	金川 眞行	河本 充司	北河 徳彦	工藤 寛	栗田 明	小林 仁・衣子	小松 愛子
齋藤 健	斉藤 久	齊藤 正晃	坂本 大介	桜田 通雄	佐藤 拓道	佐藤 正朝	三升畑元基
志済 聡子	篠原 正英	白石 哲雄	杉江 和男	杉村 誠治	鈴木 英世	鈴木 貴之	須藤 武
瀬名波栄潤	園部 昌治	竹野 巨一	田邊 達三	谷口 哲也	土家 琢磨	土屋 裕	寺澤 睦
戸田 純子	轟 明	豊田 威信	中塚 英俊	中野 晃	西田 実弘	塙 隆夫	福田 伸
福永 悟郎	藤井 信明	藤澤 裕子	藤田 正一	洲瀬 啓太	古堅 祐行	細井 眞澄	堀 祐治
前田 博	政氏 伸夫	松浦 信夫	松岡 渉	松川 大輔	松下 岳彦	松田 健一	松原 謙一
皆川 一志	宮田 信幸	村上 正晃	村上 幸夫	山田 豊	山本 栄治	横井 成尚	横山 考
吉田 篤弘	吉田 広志						

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人）

医療法人社団蘇春堂形成外科、医療法人社団ほり内科クリニック

（個人）

今多 将、小谷 里美、小野寺康博、笠井 正晴、栗田 明、小林 仁・衣子、竹野 巨一、轟 明、中野 晃、古堅 祐行、堀 祐治、松下 岳彦

感謝状の贈呈



一般財団法人ハスカップブラザ 様
(令和元年11月19日)



株式会社北洋銀行 様 (令和元年11月27日)

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）
--

（総務企画部広報課）

医療法人萬田記念病院に紺綬褒章が授与



左から、皆川理事、笠原総長職務代理、萬田理事長、吉岡医学部長

北大フロンティア基金に多額の寄附をされた医療法人萬田記念病院へ、紺綬褒章が授与されました。

医療法人萬田記念病院は、1956年に現在の地である札幌市中央区に病院を開設されて以来、糖尿病内科をはじめ地域の医療に貢献されてきました。今

回は北海道大学医学部創立100周年記念事業の趣旨に賛同いただき、平成30年8月に北大フロンティア基金の特定資金（北海道大学医学部創立100周年事業）としてご寄附をいただきました。

10月30日（水）に萬田記念病院にて

行われた伝達式では、本学から笠原正典総長職務代理、皆川一志理事、吉岡充弘医学部長が訪問し、笠原総長職務代理より萬田直紀理事長へ褒章、褒章記が伝達されました。

※紺綬褒章とは、公益のために私財（法人の場合1,000万円以上）を寄附した者を対象に、表彰されるべき事績の生じた都度、各府省等の推薦に基づき審査され、授与されるものです。

国、地方公共団体または公益団体（公益を目的とし、法人格を有し、公益の増進に著しく寄与する事業を行う団体であって、当該団体に関係の深い府省等の申請に基づき賞勲局が認定した団体）に対する寄附が授与の対象となります。

（総務企画部広報課）

北大フロンティア基金「平成30年台風21号及び北海道胆振東部地震『キャンパス復興支援』」実施事業報告

北大フロンティア基金では、平成30年台風21号及び、北海道胆振東部地震の後、支援事業の一つとして「キャンパス復興支援」をご用意させていただいたところ、令和元年10月31日までに2,114,717円のご寄附を賜りました。心より感謝申し上げます。頂きましたご

寄附を使用し、事業を実施いたしましたので、ご報告いたします。

今後とも北大フロンティア基金の趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（総務企画部広報課）

実施報告1 倒木をウッドチップ化し、舗装工事を実施

平成30年台風21号により、キャンパス北部を中心に倒木や枝が折れるなどの被害が多く発生しました。これら倒木等をウッドチップ化し、花木園およびポプラ並木の歩道に敷き詰める舗装工事を行いました。

実施報告2 倒木跡地周辺に植樹を実施

今回植樹した苗木は、明治38年に新渡戸稲造夫人メアリー氏が本学に寄贈されたハルニレの子孫となります。メアリー氏から寄贈されたハルニレは、正門付近に5本が現存しておりますが、既に樹齢110年以上が経過しています。本学ではメアリー氏のハルニレの後継樹を育成するために、種子を採取し、育苗をしています。今回、皆様からのご寄附によって、その苗木5本をキャンパス内へ植樹し、キャンパス環境を復旧することができました。



ウッドチップ舗装工事



植樹された苗木

新渡戸カレッジ特別講演会「ビジネスによるSDGsの取組と、みなさんに引き継ぎたい世界」を開催

新渡戸カレッジでは、10月5日（土）高等教育推進機構において、「新渡戸カレッジ特別講演会」を開催しました。今回の講演会は、SDGパートナーズ有限会社から田瀬和夫代表取締役CEOをお招きし、「ビジネスによるSDGsの取り組みと、みなさんに引き継ぎたい世界」と題して行いました。田瀬氏は外務省に入省後、緒方貞子氏の補佐官として「人間の安全保障委員会」事務局にも勤務した経験があり、外務省退職後は国連広報センター長などを務められた後、現在の会社を設立されました。

本講演会のテーマである「持続可能な開発目標（SDGs）」が2015年9月の国連サミットで採択されて以降、関連した取り組みは政府や企業、自治体、教育・研究機関等、様々な分野で広がっています。今年で4年目を迎える新渡戸学（フェローゼミ）においても、ゼミの目標の一つに「ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向

けて自らの考えを表現することができる」ことを掲げており、講演会を第1回フェローゼミ開始日にあわせて企画しました。当日は、フェローゼミ履修生をはじめ、ゼミを担当する新渡戸カレッジフェロー、関係者、本学教職員等、約170名が参加しました。

講演で田瀬氏は、1）SDGsへの取り組みが政府やNGOのみならずビジネスの世界にも大きく広がっていることとその理由、2）多くの人が「17分野169項目の目標」だけを追いかけており、SDGsがなかなか理解されない原因の一つに大きなストーリーの一部しか見ていないことがあげられること、3）SDGsが目指す世界像・ストーリーには、「世代を超えて」「すべての人が」「自分らしく」「よく生きられる」という4つの要素があることなど、具体的な例を交えて解説しました。参加者に問いかけながら、会場を歩きまわってメッセージを伝える田瀬氏のお話により、学生も感銘を受けた様子

で、最後の質疑応答では多くの質問があり、テーマへの関心が高まったことがうかがえました。

講演後、田瀬氏から関係者に対して「産官学市民連携を活かしたサステナビリティのうねりを起こせないか」とのお話があり、本学でもSDGsワーキンググループが発足していることから、今回の講演会をきっかけに今後も大学としての様々な連携を発展させていく予定です。

（新渡戸カレッジ）



講演会の様子

「北経連・四経連・道経連・経団連共催マッチング・ワークショップ」に参加

産学・地域協働推進機構は、10月30日（水）、東京・大手町の経団連会館において開催された、北陸経済連合会（北経連）、四国経済連合会（四経連）、北海道経済連合会（道経連）、日本経済団体連合会（経団連）共催のマッチング・ワークショップに参加しました。

このマッチング・ワークショップは、地域活性化の観点から、地域で優れた技術・サービス等を有する大学や研究機関、企業等と首都圏に立地する企業との連携・交流等を目的に開催されたものです。

本学からは、工学研究院の田坂裕司准教授が「超音波を用いたリアルタイム非侵襲インライン液体物性診断技

術」というテーマでプレゼンテーションを行い、その後、複数の企業・団体と個別面談を行いました。興味深い技術として高い評価をいただき、「直接訪問し詳しい話を伺いたい」という企業も現れるなど個別の相談も進展しています。

産学・地域協働推進機構は、今後も本学が持つ研究シーズの活用に努め、企業との共同研究や企業などでの事業化に積極的に取り組んでまいります。

（産学・地域協働推進機構）



プレゼンテーション風景

北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行



全員での記念撮影



長谷川理事・副学長から証書授与

11月6日（水）、高等教育推進機構において、北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を行いました。

授与式では、北海道大学総長奨励金被給付留学生には給付証書、北海道大学私費外国人留学生特待プログラムに採用された留学生には採用証書が、長谷川晃理事・副学長から授与されました。留学生は緊張しながらも、誇らしげに証書を受けとっていました。

留学生一人ひとりに証書が手渡された後、長谷川理事・副学長から祝辞が述べられ、留学生は真剣なまなざしを

向け聞いていました。

北海道大学総長奨励金は、優秀な外国人留学生が自由に、そして安心して学ぶことができることを目的として平成18年度に開始された制度です。修士課程、博士後期課程（医学院、歯学院、獣医学院、国際感染症学院及び生命科学院臨床薬学専攻については博士課程）、専門職学位課程等に、協定校等から推薦された者を選考の上、受入れを行っています。

北海道大学私費外国人留学生特待プログラムは、国際的な貢献に寄与する人材を育成することを目的とし、平成20年度に開始された制度です。博士後

期課程（医学院、歯学院、獣医学院、国際感染症学院及び生命科学院臨床薬学専攻については博士課程）、博士課程教育リーディングプログラムに選抜された修士課程と博士後期課程（獣医学院及び国際感染症学院については博士課程）に入学する私費外国人留学生を対象にしており、アドミッションポリシー、研究分野、研究の課題等を明確にしたプログラムに基づき受入れを行っています。

（学務部学生支援課）

高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催

北海道教育委員会及び本学主催で、10月23日（水）～25日（金）の3日間、高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催しました。

本事業は、国際交流に興味・関心を持ち、大学等に進学し学術研究に意欲的に取り組もうとする道内の高等学校の生徒に対して、留学生との相互交流や講義等の受講の機会を創出することにより、国際理解の促進と進学意欲の向上を図り、将来におけるグローバル人材を育成することを目的としており、昨年度に引き続き2回目の開催となりました。

まず、9月には本学の留学生12名を道内の高等学校10校に派遣し、授業や部活動への参加を通じた異文化交流を行いました。そして今回のプログラム

では、道内の高等学校15校から高校生29名を受け入れ、長谷川晃理事・副学長による挨拶に続き、主に遠友学舎で以下のようなプログラムを実施しました。

- ・留学生と札幌農学校第2農場見学
- ・留学生及び日本人学生が受講する授業への参加・交流
- ・本学の日本人留学経験者及び外国人留学生らによるプレゼンテーションの聴講
- ・持続可能な開発目標（SDGs）についてのワークショップへの参加と留学生との意見交換等
- ・新渡戸カレッジ 国際インターンシップ報告会への参加
- ・外国人大学院生の研究室訪問と交流

プログラムに参加した高校生たちからは、「視野が広がり、これからはもっと自分のしたいことに全力で取り組みたいと感じた」「思ったことを瞬時に英語にすることの難しさを感じる」と同時に、楽しさや面白さも感じられた」「何を学ぶためにどう動くのか、といった自主性や挑戦する気持ちの大切さを感じた」「北大に入りたいという気持ちが強くなった」といった声が聞かれました。また、今回ご協力いただいた本学の留学生からも、本事業は、異文化理解の促進において有意義であったとの感想が多く寄せられ、高校生、留学生双方にとってよい機会となりました。

（学務部入試課）



長谷川理事・副学長による挨拶



留学生が受講する日本語の授業に参加



留学生との交流



SDGsについて学んだことを留学生とポスターに



ヒューマノイドの研究室を訪問

情報基盤センターが「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を共催



受講生一同



開会に先立ち挨拶する南サイバーセキュリティセンター長

11月9日（土）及び10日（日）、情報基盤センター南館で、情報基盤センター共催による「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を開催しました。

本イベントは、次代を担う世界に通用する若年層の情報セキュリティ人材を発掘・育成するため、一般社団法人LOCAL、一般社団法人セキュリティ・キャンプ協議会、独立行政法人情報処理推進機構が主催し、産業界・教育界などから結集した各方面に造詣の深い講師から、短期集中で学ぶ機会を提供するものです。年1回の全国大

会の他、年10数カ所で開催される地方大会があり、本イベントは後者のひとつとして実施しました。

今回は、セキュリティ専門企業による「解析して学ぶスマートフォンアプリのセキュリティ」や、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部による「情報倫理とセキュリティ」など、実践的なプログラムや講義を、北海道のみならず道外在住者も含めた19名が受講しました。

本イベントは平成28年度から毎年、情報基盤センター南館で実施されてお

り、今回で4回目となります。同センターのサイバーセキュリティ研究部門の南 弘征教授（サイバーセキュリティセンター長、情報環境推進本部情報セキュリティ対策室長）及び飯田勝吉准教授（サイバーセキュリティセンター員、情報環境推進本部情報セキュリティ対策室副室長）がローカルアレンジメントを担い、本学のみならず地域のサイバーセキュリティ啓発活動の推進に貢献しています。

（情報基盤センター）

研究成果を事業化へ～「第9回おおた・研究開発フェア」に出展～

産学・地域協働推進機構は、研究成果の事業化を促進するため、10月24日（木）・25日（金）の2日間にわたり、東京都にある大田区産業プラザPiO 1階の大展示ホールで開催された「第9回おおた・研究開発フェア」に出展しました。同展示会は大田区と公益財団法人大田区産業振興協会が主催し、毎年、約100の研究機関や企業、大学が出展しています。同展示会の出展者は、3分の1以上が大学からの出展となり、材料技術やIT・システム、医療・ヘルスケア、バイオ・農林水産、ロボット技術など多岐にわたる研究シーズで構成されています。

本学からは、工学研究院の米澤 徹

教授、情報科学研究院の小水内俊介助教、先端生命科学研究院の野々山貴行特任助教の3シーズを出展しました。

当日は川崎市など周辺地域の企業の参加もあり、新規事業の開発・研究を担う部署の担当者が多数来場し、本学の研究シーズに高い関心を示していました。今回の出展をきっかけに、本学の研究者との個別相談が複数進行しています。

産学・地域協働推進機構は、今後も同産業振興協会との継続的な関係を維持し、企業との共同研究や技術移転に積極的に取り組んでまいります。

（産学・地域協働推進機構）



企業ニーズを聞きながらマッチングを行う産学・地域協働推進機構の職員

博士人材と企業の情報交換会 第40回「赤い糸会&緑の会」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、10月29日（火）に学術交流会館にて、本年度第2回（通算第40回）「赤い糸会&緑の会」を開催しました。

本年度第2回目の開催となる本会は、企業には博士人材の高い専門性や総合力を理解いただき、博士人材には企業の研究開発活動や企業における博士人材の活躍状況等を知ってもらうことで、相互理解を深め、視野の複線化、活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回で「赤い糸会&緑の会」は通算40回目の開催となり、参加者も回を重ねるにつれ増加し、今回は12部局44名の博士人材と、企業等から42名（各種業界17社40名）、オブザーバ大学2校2名が参加しました。また、平成26年度末に採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業により、連

携大学から博士人材3名（東北大学1名、横浜国立大学1名、兵庫県立大学1名）も参加しました。

本会では、冒頭の人材育成本部部長の笠原正典理事・副学長による開会挨拶、赤い糸会担当の吉原拓也特任教授による趣旨説明の後、企業から業界動向や博士人材の活躍状況等の紹介が行われ、その後、博士人材の自己紹介ポスター発表、企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。

開催後、企業からは、「博士人材を活かすための素晴らしい取り組み」「学生と深く接触することが出来、悩み等を知ることが出来て有益だった。スケジュールも無駄がなく素晴らしかったです」との声をいただくことができました。また参加した博士人材からは、「情報収集の場として役立って

いる」「非常に濃密な1日を過ごすことができました」といった嬉しい声も聞かれました。

人材育成本部では上記の活動のほか、企業事業所視察、Advanced COSA、J-window（個別キャリア相談）、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップや、コンソーシアムの連携大学である東北大学や名古屋大学等が運営するプログラムの活用などによって、博士人材の実践力を高めております。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いします。

なお、興味のある方は人材育成本部ホームページを是非ご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



笠原人材育成本部長の開会挨拶



吉原特任教授の趣旨説明



企業からの業界動向説明



説明に聞き入る若手研究者



若手研究者のポスター発表



企業との個別情報交換

■ 部局ニュース

人間知・脳・AI研究教育センター設立記念シンポジウム ～意識の科学の冒険——哲学・脳科学・AI・ロボット研究のクロスオーバー～を開催



登壇者集合写真

本年7月1日（月）に人間知・脳・AI研究教育センター（Center for Human Nature, Artificial Intelligence, and Neuroscience (CHAIN)）（学内共同施設）が設置されました。この設立を記念して、11月9日（土）、10日（日）に医学部学友会館「フラテ」で、国際シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムでは、哲学・神経科学・人工知能（AI）・ロボティクス・認知心理学などの分野から、国内外で活躍している第一線の研究者を招き、「意識」という身近でありながら謎めいた現象をめぐる学際的な議論を行

いました。

11月9日（土）には、田口 茂センター長による開会の挨拶に続き、オタワ大学のGeorg Northoff教授、モナシユ大学の土谷尚嗣准教授、サセックス大学の鈴木啓介研究員、株式会社アラヤの金井良太代表取締役CEOによる招待講演、及び、国立陽明大学（台湾）のYing-Tung Lin助教の司会によるパネルディスカッションが行われました。11月10日（日）には、カリフォルニア工科大学の下條信輔教授、メンフィス大学のShaun Gallagher教授、沖縄科学技術大学院大学の谷 淳教

授、DiGRA JAPANの三宅陽一郎理事による招待講演が行われ、最後にLin助教の司会により2日間の議論をふまえたパネルディスカッションが行われました。

いずれの講演でも、予定時間を超えるほど活発な質疑応答が行われ、休憩時間中にも会場のいたる所で議論や情報交換を行う様子が見られるなど、盛会のうちに幕を閉じました。（参加者延べ208名）

（人間知・脳・AI研究教育センター）



Northoff教授による講演



コメントするGallagher教授



特別講演の様子



下條教授による講演



パネルディスカッション

法学部同窓会寄附講演会を開催

10月31日（木）、北海道副知事 土屋俊亮氏（昭和55年農学部卒）をお迎えして、法学部同窓会寄附講演会を開催しました。

「北海道に育てられた私が、北大生の皆さんに期待すること」というテーマの講演では、学生時代の自分史から始まり、人口論や気候変動を補助線として、食や観光の面で強力なブランド力を持つ北海道の特性に基づき、北海道で働くことの魅力について、温かいなかにも情熱的に語られました。

北海道庁に畜産職として入庁以来、農政畑を中心に厚生労働省労働部局でも勤務した幅広い経歴に裏打ちされたお話しは、法学部生はじめ文系学部 학생にとっては非常に貴重で新鮮なものでした。

特に、講演の中で引用された「最も強い者が生き残るのではない。最も賢い者が生き延びるものでもない。唯一生き残ることができるのは変化に対応できる者である」というダーウィンの言葉は、感想文にも頻繁に引用され、

多くの学生の心に深く刻まれたようです。

学生の進路選択の一助として、多様な人材の宝庫である同窓会の組織力を活用して、先輩たちの経験や思いを語っていただくという本企画は、講師として土屋北海道副知事をお招きできたことに加え、職員や教員のサポートのもと、昨年に引き続き好評を得ることができました。

（法学研究科・法学部）



講演する土屋北海道副知事



会場の様子



池田清治研究院長から土屋北海道副知事へ感謝状贈呈

経済学部が公認会計士・監査審査会会長の特別講演会を開催

経済学部・経済学院主催により、11月14日（木）に人文・社会科学総合教育研究棟において、金融庁公認会計士・監査審査会会長の櫻井久勝氏（神戸大学名誉教授）を講師にお招きし、特別講演会を開催しました。

公認会計士・監査審査会（Certified Public Accountants and Auditing Oversight Board）は、公認会計士法に基づき、金融庁に設置されている公認会計士試験の実施機関であり、我が国の資本市場の公正性及び透明性を高めることを使命とし、公認会計士監査の質の向上を図り、その信頼性を確保することにより、資本市場の信頼性向上に努めています。

櫻井会長は、「経済社会を支える会計と監査」のテーマで、利益測定誕生と普及、経済社会のインフラとしての会計、インフラを守る監査等について講演されました。

普段何気なく簿記や会計を学ぶことが多い中、櫻井会長は、利益を測る技術である「複式簿記」の起源は、遅くとも1494年にイタリアの数学者ルカ・

パチョーリがヴェネツィアで出版した教科書において記載されており、商人の活動によりヨーロッパ各地へ伝播及び普及したことを解説されました。日本への伝播は、米国を視察した福沢諭吉先生の1873年（明治6年）の翻訳「帳合之法」からになりますが、複式簿記は人類の共有財産であり、経済社会における重要性を改めて認識できるお話でした。

また、ノーベル経済学賞を受賞したアカロフの論文「レモンの市場」を引用され、品質に不確実性がある財貨が取引される市場が成立するには、売主（企業）から買主（投資者）へ正しい財務報告を行って市場を成立させる役

割（会計の情報提供機能）が重要であることも説明されました。

更に、公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務に関する情報の信頼性を確保することにより、投資者及び債権者の保護等を図り、国民経済の健全な発展に寄与することを使命とすることを熱弁されました。

当日は、本学の経済学部の学生や会計専門職大学院の院生及び一般の方々など約180名が参加し、盛況のうちに講演会を終了しました。

（経済学部・経済学院）



公認会計士・監査審査会会長 櫻井氏



講演会の様子

経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催

経済学部は、11月6日（水）、学術交流会館で、札幌国税局長の灘野正規氏による特別講演会を開催しました。「税務行政の現状と国税庁の取組」と題し、税制の現状と変遷を概観するとともに、適正・公平な税務行政の推進、国際課税に対する対応など国税庁が現在直面している課題について講演していただきました。

講演では、まず、税制の変遷として、税収の中心となる所得税と法人税などが歴史的にどのように変わってきたか、さらに税の分類と税収の推移、消費税の仕組みと軽減税率について説明がありました。次に、国税庁の使命として、申告納税制度を支える2つの柱としての納税環境の整備と、適正・公平な税務行政の推進についての話がありました。適正・公平な税務行政の推進として、経済取引の広域化や金融取引の多様化で脱税が複雑・巧妙になっており、これに対し実地調査での所得把握や資料情報の充実が図られるとともに、査察調査では悪質な滞納者に対し厳正に対応しているとのことでした。さらに、税務行政の将来像として、ICT社会への対応のために納税手続きのデジタル化などにより、納税者の利便性の向上と課税・徴収の効率化が図られているとの話がありました。

さらに、国際的な取引では、企業や富裕層は各国の税制や租税条約の違い

を利用して国際的な租税回避行動をとっており、これに対する対策についても説明がありました。多国籍企業が税制のずれを利用して国際的な課税から逃れようとするBEPS（税源侵食と利益移転）に対し、国税庁は税務行政に対する国民の信頼を確保するため、「国際戦略トータルプラン」を作成し、諸外国と租税条約に基づいて情報を交換し、適正な課税を行うように努めていると述べられました。

講演会には130名程度の多くの参加があり、本学の学生に加えて、一般の方が多数参加していました。また、アンケートでは、参加者の多くから灘野氏の講演が非常に有益であった旨の回答がありました。

わが国では、今年10月に消費税の税率が8%から10%に引き上げられました。国と地方の累積債務の合計は1,100兆円程度に達し、さらに社会保障と子育て支援の経費のための財源が必要となっています。このため消費税

増税は必要であると考えられています。これに反対する人は少なくありません。問題は国民の理解をどのように得るかです。増税は国と国民との新たな契約であり、そこには両者の間の信頼関係が必要です。税に対する国民の信頼が納税を支え、社会を支えています。税務行政において国際化を含めた新しい時代の中で、税に対する信頼を確保し、国民一人ひとりが社会を支えているという自覚をもつ必要があります。このためには私たちが税に関心を持ち、税の理解を通して社会に参加し、真剣に社会の在り方を考えることが重要です。

このような講演会が、学生にとって、現実の問題に関心を抱き真剣に日本の将来を考えてもらうよい機会になることを期待し、今後も企画していく予定です。

（経済学研究院・経済学部）



講演する札幌国税局長 灘野氏



熱心に講演を聞く学生たち

医理工学院で第3回学生研究発表会及び第3回企業との交流会を開催

医理工学院では、10月24日（木）に医学部学友会館フラテにおいて、第3回学生研究発表会及び企業との交流会を開催しました。

昨年同様、学生が日々の研究成果を発表する場を設け、医理工学院の教育活動や研究成果等を多方面に知って頂くことを趣旨とし、一般社団法人日本経済団体連合会の倫理憲章を遵守しながら、学生38名、教員17名、企業10社18名の計73名が参加しました。

学生には異なる系の指導教員が2名ずつ対応し、医理工学院の研究領域である医学・理学・工学の融合領域における研究発表を適切にできるよう、配慮した教育・指導が行われました。

医理工学院の教育目的である「最先端理工学を活かした、新たな医療技術

や医療機器を開発できる研究者や技術者を育てる」「高精度放射線治療や粒子線治療を担う医学物理士を育成する」の実現に向け、更なる一步を踏み出すことができました。

今回、修士課程2年生はポスターデザイン・作成、抄録作成、発表スライドの取りまとめ・設定、会場設営、当日受付及び司会進行等などにも携わり、医理工学院を担当する教員からは、学生が研究以外の面においても研究者・技術者として今後に役立つ知識を学ぶ機会となり、有意義であったとの意見が寄せられました。

また、参加した企業の方々からは「昨年度に続き、学生の堂々たる発表には目を見張る物がある。それを支える先生方の日頃の教えの賜物と思う」

との感想が寄せられ、大きな成果を得ることができました。

来年度以降も引き続き本発表会及び交流会を開催し、医理工学院の教育活動の発展に寄与する機会となるよう、更なる充実を目指していきます。

（医理工学院）



学生研究発表会の様子

第14回医学研究院連携研究センター研究成果発表会を開催

医学研究院では、11月6日（水）、医学部百年記念館において第14回医学研究院連携研究センター研究成果発表会を開催しました。

本センターは、長期的展望に基づいて堅実な知を追求する基盤的研究と、目標と期間を設定して先端的・革新的な研究開発を目指す戦略的研究の融合を図ることを目的として、平成18年4月1日に設置された学際的研究拠点です。これまで、大型研究プロジェクトを中心として多彩な研究活動が展開され、医学・生命科学と理工学の融合領域において、世界をリードする数多くの研究成果が得られています。

今回の研究成果発表会には、56名の

教職員・学生が参加し、センターの各分野から最新の情報が提供されました。また、特別講演として、京都大学農学研究科の植田充美教授による「マルチオミクスの生かし方ーゲノム情報と動的生命現象との直結に向けてー」

と題した講演が行われました。参加者にとって、今後の取り組みに向けた新たな可能性が示唆された研究成果発表会となりました。

（医学研究院）



講演する植田教授



発表会の様子

スイス連邦工科大学との学術交流シンポジウムを開催



ETH関係者と本学関係者による記念写真

工学研究院と農学研究院では、10月28日（月）・29日（火）の2日間、スイス連邦工科大学チューリッヒ校（ETH）に11名の研究者を派遣し、第9回学術交流シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、国際連携強化の観点から、本学から長谷川晃理事・副学長、永田晴紀工学研究院副研究院長、金子郁代国際連携課長が参加し、特にロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点、f3工学拠点を核として、本学とETHの2020年以降の交流

事業計画について協議し、ETH研究担当理事との間でMoU（部局間交流協定）調印式を実施しました。

ETHは大学世界ランキング常時10位以内の、世界中から野望と実力を兼ね備えた研究者が集まる研究機関であり、日本国内の他の10大学とも学術協定を結ぶ理工系トップレベルの大学ですが、本学では工学研究院の機械系ならびに化学系の部門において、過去10年間、ETHとの相乗効果を有する研究・教育の繋がりが構築され、相互に信頼できるパートナーとして実利のあ

る学術交流が発展してきました。本学側のコーディネーターを担当する村井祐一工学研究院教授は、次回の第10回記念行事とそれ以降の10年間に向け、農工連携、バイオ・材料科学、宇宙航空船舶技術の分野でETHとの共同研究成果の獲得を目指し、2大学間の若手研究者のパートナーシップ推進のために声かけをしています。

（工学研究院）



協定の更新に関する覚え書き締結後の記念撮影



長谷川理事・副学長（左）とETH研究担当理事（右）

工学系部局で救急救命講習会を実施



参加者全員での集合写真

工学系部局では、10月29日（火）に工学研究院アカデミックラウンジにおいて、公益財団法人札幌市防災協会から救命指導専門官を招き、救急救命講習会を実施しました。

工学系部局のエリア内では、「どこにいても5分以内にAEDによる処置が可能となる」目安を満たすよう、10箇所（自動体外式除細動器）を設置しています。

本講習会は、学内外にかかわらず心肺停止に陥った人がいた場合、AEDを利用する等の方法により救急救命措

置を行うことができるよう、心肺蘇生術を自身の技能として体得することを目的に毎年実施しているものです。

講習会では、15名の参加者が「一次救命措置（心肺蘇生法、AEDの取扱い方）について」として、心肺蘇生法や人工呼吸のやり方、具体的なAEDの使用方法などの基礎的な実技を学び、参加者からは、「わかりやすかった」などの感想がありました。

講習会終了後には、幅崎浩樹工学研究院副研究院長からオリジナルバッジの授与が行われました。このバッジの

授与は、平成30年度から行われているもので、受講修了者が普段からバッジを着用することで、救急救命措置が必要となった場合にいち早く対応可能な人を探することができること、また、受講修了者同士が協力しやすくなることを目的として、始められたものです。

工学系部局では、来年度以降も救急救命講習会を開催していく予定です。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学院・情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センター）



胸骨圧迫による心肺蘇生を行う参加者



バッジについて説明する幅崎工学研究院副研究院長



オリジナルバッジ

工学系部局で安全衛生管理講演会を開催

工学院・工学研究院・工学部、情報科学院・情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センターでは、「工学部安全の日^{*}」関連行事として、毎年学内外から講師を招いて、安全衛生管理にかかるテーマで講演会を開催しています。

本年度は、工学研究院建築都市空間デザイン部門の菊地 優教授を講師に迎え、11月13日（水）にフロンティア応用科学研究棟において開催しました。

本講演会は、菊地教授から「これからの耐震設計と地震防災対策」と題した、最近の建築物への地震被害や地震防災に必要なこと、最先端免震技術についての紹介があり、引き続き、安全衛生管理室長の島田敏宏教授から、北海道胆振東部地震を教訓とした室内の地震対策について紹介がありました。

本講演会には、16名の教職員が参加し、参加者からは有益であった旨の感想が多く聞かれ、今後の安全教育の充

実化に繋がる講演会となりました。

^{*}工学部安全の日

平成4年8月10日に工学部で発生した重大事故に鑑み、本学部における安全管理・安全教育体制の整備と安全意識の向上に資

するために、制定された日。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学院・情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センター）



講演する菊地教授



講演会の様子



講演する島田教授



講演会の様子

農学研究院で第13回Sapporo Alumni Lecturesを開催

農学研究院では、一般社団法人札幌農学同窓会とともに、11月22日（金）、本学の学生を対象とした第13回Sapporo Alumni Lecturesを開催しました。本講演会は、社会の第一線で活躍する本学農学部卒業生を招いて学生に向けて講演いただくもので、学生時代に農学部で学んだこと、また農学部を卒業して今日までの様々な経験、そこから得たものを語ってもらい、学生の今後の学びや将来の目標を考える機会にしてもらうことを目的としています。

今回はビジネスサイエンス&テクノロジー株式会社代表取締役の小野桂子氏と、ヤンマーグリーンシステム株式会社企画部購買グループ部長の黒田剛史氏をお招きして開催しました。

久保友彦教授の司会のもと講演会が始まり、冒頭で西邑隆徳研究院長から、ご自身の同窓会との関わりについて触れながら開会の挨拶があり、続いて曾根輝雄教授から小野氏の紹介がありました。小野氏からは、「学んだ知識、経験したことで無駄なことは無い」と題して講演いただきました。

小野氏は、本学に入学後、農学部生物機能化学科の前身である農学部農芸化学科に進学し、土壌学講座（現土壌学研究室）で生産性向上に関わる研究をされました。その中で学んだことは、まさに当時の農学部教育理念であったと語られ、働き始めてからの実体験をもって初めて、実社会の産業や労働で基本となる考えを農学部時代に学んだことに気が付いたとの話がありました。講演の中で、ご自身のキャリアの中で培われたもの、幼少期からの

バックグラウンドの中で得られた多様な視点、社会人になってから経営学を学ぶために大学院へ進学し得られたもの、またご自身のキャリアの転機となった当時の産業の情勢や出会いなどから起業に至った経緯や、ご自身の事業の発展について貴重な経験を伝えてくださいました。また、他の卒業生の様々なキャリアの例などにも触れながら、ご自身のユニークな経歴と人生の話など学生にとって大変刺激となる内容でした。また講演後、学生からの質問にも真摯にお答えいただきました。

続いて、岡田啓嗣講師から黒田氏の紹介があり、黒田氏から「農業プラントエンジニアリングに従事して」と題して講演いただきました。黒田氏は、農学部生物環境工学科の前身の農学部農業工学科に進学し、原動機学講座（現ビークルロボティクス研究室）で学んだ方です。黒田氏は農学部在籍中の学科の研修旅行で農業プラントと出会ったこと、卒業後すぐには農業プラント関連の会社への就職はかなわず、就職した日本セメント株式会社でセメント製造プラントのノウハウを吸収し、農業プラントエンジニアリングに必要な設計・施工などの知識を学び、その後「どうしても、農業にかかわる仕事がしたい」との想いでヤンマー農機株式会社に転職したことを冒頭で語られました。

講演では、ヤンマーグループ、とくに農産分野のヤンマーグリーンシステム株式会社の事業内容について紹介があり、農産分野では米麦の共同乾燥施設や水稻育苗施設、また選果・園芸分野では施設園芸ハウスなど、具体的な

例を挙げながら、わかりやすく、自社の農業プラントの施設の概要を説明されました。その中で丸型ビンシステムをはじめとした国内初の新商品の開発にいくつも携わったこと、またキューバ共和国種子センター建設に係るキューバでの施工管理・据付に従事したことなど、ご自身の多岐にわたる実績について話がありました。また農業プラントエンジニアリングの魅力や、農業プラントの今後の展望などについて、ご自身の経験を交えながら語り、熱意のこもった学生へのメッセージで講演を締めくくられました。

最後に、札幌農学同窓会の松井博和理事長から、講演者のお二方への謝辞が述べられ、講演について振り返るとともに、学生へ今後の期待や激励の言葉が贈られました。

今回のSapporo Alumni Lecturesでは、本学農学部卒業生を代表するお二人に貴重なご講演をいただき、参加された多くの学生にとっても大変有意義な機会となりました。卒業生の小野氏、黒田氏には貴重なお話をいただき、改めて感謝申し上げます。

（農学研究院）



西邑研究院長の開会挨拶



講演する小野氏



講演する黒田氏



札幌農学同窓会の松井理事長の開会挨拶

第16回北海道大学病院指導医のための教育ワークショップ (指導医講習会) を開催



参加者全員での集合写真

北海道大学病院臨床研修センターでは、10月19日（土）と11月2日（土）の2日間にわたり、病院臨床研究棟にて、厚生労働省認定の指導医講習会「第16回北海道大学病院指導医のための教育ワークショップ」を開催し、道内の臨床研修施設から指導医50名の参加がありました。

新医師臨床研修制度が導入された平成16年度以降、研修医を指導する医師の役割はますます重要になっており、本院では毎年、道内教育病院における指導医の資質向上と適切な指導体制の確立を目的としてこのワークショップを開催しています。

今年度は学外から杉本なおみ先生（慶應義塾大学）、安井浩樹先生（美

幌町立国民健康保険病院）、北市雄士先生（手稲病院）、岸田直樹先生（Sapporo Medical Academy）、松浦武志先生（勤医協中央病院）を講師に迎え、5名の学内講師と16名のタスクフォースの協力により実施しました。本ワークショップは「研修医と指導医のメンタルヘルス」「明日から使えるカリキュラム作成の基本」等、10のセッションから構成され、参加者は講義を受けた後、小グループのワークショップ形式でのグループ討論・ロールプレイを行い、最後には全体発表を通じて、指導における日頃の悩みを共有しつつ活発な議論を展開しました。

全日程終了後は、加藤達哉医科卒後臨床研修部門副部門長から参加者代表

へ修了証が手渡されました。参加した指導医からは、「非常に興味深く、明日からの研修医の指導に生かせるヒントをいただきました」等の感想が寄せられ、充実した講習会となりました。

（北海道大学病院）



真剣にグループワークを行う参加者

川畠成道氏と佐藤勝重氏による「北大病院ミニコンサート」を開催

11月14日（木）、北大病院アメニティホールにおいて、ヴァイオリニストの川畠成道氏とピアニストの佐藤勝重氏を迎えて「北大病院ミニコンサート」を開催しました。

4月に本学医学部出身の医師のご家族から「患者さんの心を癒やすために」とスタインウェイの高級グランドピアノが本院へ寄贈され、そのお披露目の機会として企画されました。

コンサートは、川畠氏からの「ピアノは私にとっても欠かせない楽器。素晴らしいピアノと共演でき、皆さんにも聴いてもらえて非常に嬉しい」という挨拶により開演しました。

冒頭から聴きなじみのあるクラシックの名曲が5曲披露され、終盤には川畠氏がずっと弾き続けている曲『アヴェ・マリア』『チャルダッシュ』が演奏されました。患者さんをはじめとする観客は、『アヴェ・マリア』の美しい旋律に聴き入り、軽快で華やかな『チャルダッシュ』では、リズムを取りながら楽しんでいました。

英国と日本を拠点に活動を展開する川畠氏と、桐朋学園音楽大学・昭和音

楽大学講師も務める佐藤氏の表現豊かな素晴らしい演奏に、観客の感謝を込めた盛大な拍手が送られ、アンコールでさらに1曲披露されるなど、充実した素敵なコンサートになりました。

終演後には、患者さんから「また企画してほしい」「演奏した曲を教えて

ほしい」といった好評の声が多く寄せられました。

本院では、これからも患者さんの癒やしになり喜んでいただけるような企画を実施してまいります。

（北海道大学病院）



演奏する川畠氏（ヴァイオリン）と佐藤氏（ピアノ）



秋田弘俊病院長・高橋久美子看護部長から感謝状と記念品の贈呈



ピアノを寄贈されたご家族との記念撮影

北海道大学病院で令和元年度地域連携懇話会を開催

11月15日（金）に京王プラザホテル札幌において、令和元年度北海道大学病院地域連携懇話会を開催しました。今年度は「がん患者の在宅緩和医療の現状と課題」をテーマとし、地域包括ケアシステム*においてがん患者の在宅緩和医療に多くの経験を有する医師、歯科医師、看護師、ソーシャルワーカーの方に登壇いただきました。

秋田弘俊病院長の開会挨拶後、第1部は札幌南徳洲会病院の前野 宏総長に「在宅緩和ケアの現状と課題」と題して基調講演をいただきました。

引き続き第2部では、「北大病院におけるがん患者の在宅緩和医療の現状

と課題」と題して、当院地域医療連携福祉センターの伊藤千奈美看護師長が講演し、続いて、「当院における在宅緩和ケアの現状と課題」と題して、こだま在宅内科緩和ケアクリニックの児玉佳之院長、「当ステーションにおけるがん終末期の支援の現状－小児の事例紹介」と題して、来夢ライン訪問看護ステーションの森 明恵所長、「在宅緩和ケアの現状と課題－医療機関と在宅との連携に着目して－」と題して、ホームケアクリニック札幌の下倉賢士MSW（医療ソーシャルワーカー）、「がん終末期に携わった一例」と題して、あさひ歯科クリニックの今

川博之院長に講演いただきました。

当日は142名（院外98名・院内44名）の参加者があり、講演後の質疑応答、その後の懇親会まで、盛況のうちに本懇話会を終了しました。

*地域包括ケアシステム：少子高齢化に対応するために高齢者が住み慣れた地域で自分らしい人生を全うできる社会を目指して、2025年を目途に整備が進められている「地域の包括的な支援・サービス提供体制」。

（北海道大学病院）



秋田病院長の挨拶



前野総長による基調講演



懇話会の様子

メディア・コミュニケーション研究院公開講座「軍の記憶と戦後」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、11月7日（木）から11月21日（木）までの毎週木曜日、計3回にわたり、2019年度公開講座「軍の記憶と戦後」（講師：渡邊浩平）を実施しました。

太平洋戦争が終わって70年をこえる月日がたち、戦争の記憶をいかに継承すればよいのか語られて久しくなりました。本講座では軍に焦点をあて、初回は、「旧軍という課題」というタイトルで、なぜいま旧軍を語らねばならないのか、札幌にある軍事遺跡と戦争をめぐる論争を通じて考察しました。二回目は戦艦大和を題材に、その歴史と、戦艦大和から帰還した学徒兵吉田満氏の思考の軌跡を通じて、戦没将兵

の記憶がどのように継承されてきたのか確認しました。三回目は、旭川第七師団、札幌月寒25連隊の歴史から、「北鎮（北の守り）」としての近代北海道の歴史を辿り、「軍の記憶」をどのように考えればよいのか検討しました。

応募者多数のため抽選により受講者を制限せざるをえなくなりましたが、

毎回多数の方に参加いただき、多くの質問、意見が寄せられました。戦争の記憶が薄れゆくなかで、戦艦大和、吉田 満氏、そして北海道の歴史を通じて、複雑にからみあった「軍の記憶」をご理解いただけたのではないかと思います。

（メディア・コミュニケーション研究院）



講義中の様子



講義終了後の修了証書授与式の様子

国際シンポジウム・講演会「美麗島事件と光州事件からみる『アジア連帯』」を開催

メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センター及びメディア・ツーリズム研究センターでは、11月2日（土）・3日（日）に国際シンポジウム・講演会「美麗島事件と光州事件からみる『アジア連帯』」を開催しました。戦後東アジアにおける民主化の過程において重大な転換点となった2つの事件を題材とし、当時の国際社会、特に東アジアにおいて、どのように連帯がなされていたのか議論を行いました。題材とした事件は、1979年12月に台湾で発生した美麗島事件（別名：高雄事件）と、1980年5月に韓国で発生した光州事件です。前者は今年で40年、後者も来年で40年という節目の年を迎えますが、これまでそれぞれ独立して研究されており、今回のシンポジウムでは両者を並置しつつ議論することで新たな知見を得ることができました。

11月2日（土）の国際シンポジウムは「高雄1979、光州1980：二つの民主化運動40年」と題し、第一部「光州1980.5.18」では全南大学の劉京南氏と曹娥羅氏が、光州事件のイメージがどのように統制をくぐり抜け、国際的な情報流通を通してメディア上で構築されたかについて、立教大学の李美淑氏が、トランスナショナルな公共圏においてどのように連帯がなされたのかについて発表を行いました。第二

部「美麗島事件1979.12.10」では、国立政治大学文学院院长の薛化元氏から美麗島事件の概略とこの事件の歴史、その後の影響について、国史館館長の陳儀深氏から当時の資料を読み込むことで当局の事件に対する考え方と国際社会からの支援についての発表がありました。

11月3日（日）は講演会「真相・和解・伝承 台湾の白色テロと移行期の正義を考える」と題し、戦後の台湾における白色テロ被害者と関係者から話を伺いました。白色テロの被害者で政治犯として10年間離島での収監生活を余儀なくされた蔡焜霖氏は、自身の経験を紹介し、和解のためには、当時の加害者が何をしたのかを明らかにしなくてはいけないと語りました。政治犯の親戚であるフリーライターの龔昭勳氏は、自著『死亡行軍』の執筆とその後の活動の経験をふまえて、政治犯の次の世代として歴史を記録し、伝えていくことの重要性を伝えました。また、午後には月形町の樺戸集治監を訪問し、東アジアの近現代における監獄のあり方を考えることで、民主主義や人権についての理解を深めました。

本シンポジウムには両日でのべ130名程度の参加があり、多くのコメントや質問が寄せられました。今日の台湾や韓国では一定レベルの政治活動の自由が認められており、たとえ政府を公

然と批判しても罪に問われることはありませんが、それはそれほど古いことではありません。本企画は、戦後の独裁政権下で何が起きていたのかを実際に体験した人や、第一線の研究者らとの議論を通じて理解する貴重な場となりました。

なお、本シンポジウム及び講演会は2018年10月5日（金）にメディア・コミュニケーション研究院で実施した国際シンポジウム「死亡行軍：戦後台湾における白色テロ被害者との対話から」と、本年3月29日（金）に台湾で行われた国際シンポジウム「戦後東亞之和平、人権的記憶與表象論壇」に引き続いて開催されました。今後も台湾、韓国でのシンポジウムの開催が企画されており、交流と議論を行ってきたいと思います。

（メディア・コミュニケーション研究院）



会場の様子

美唄市との共同プロジェクト 「やさしい日本語を使った美唄市民との交流会」を実施



空知神社での集合写真

全学教育科目「英語演習中級：異文化間コミュニケーションの実践（国際交流科目Intercultural Communication and Language Issuesとして合同開講）」では、留学生6名（台湾2名、カザフスタン2名、スコットランド1名、インドネシア1名）と学部1年生9名と一緒に履修しています。様々なレベルの言語運用力の人々とコミュニケーションをとる必要性が高まっている現代社会において、言語の制限がある中でも効果的に相互理解を深める方法について学んでいます。特に、近年注目を集めている、日本語が母国語ではない方々にもわかりやすい「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションスキルについて学び、「わかりやすさの要素」について考えるなどしてい

ます。外国人と言えば「英語」となりがちですが、英語を日常的に使用している在日外国人は半数にも満たないという統計があり、多文化共生を目指す際には、わかりやすい日本語の使用がより重要になると言えます。

美唄市では、外国人旅行者の訪問が年々増えており、自治体をあげて「おもてなし人材の育成」、「やさしい日本語」の普及に取り組んでいます。今回の共同プロジェクトでは、同市を訪ねて、老若男女様々な美唄市民の方々と「やさしい日本語」を使って交流を行いました。

交流会に先立って、市民ボランティアの方々に美唄市内の町案内をしていただきました。参加学生は、町の標識や案内板などを注意深く見て歩き、外

国人観光客が美唄市に立ち寄った際に情報が得やすい体制になっているなどの課題を見つけて持ち帰り、現在継続中の授業において、グループプロジェクトとして「美唄市への提言」に取り組んでいます。

本企画は、美唄市経済部経済観光課の佐藤花美氏に尽力をいただき、初めて実現しました。佐藤氏ご自身が、日英両言語で行われる国際教育で有名な日本の大学のご自身で、そのような教育によって培われた視点が本プログラムの実施に反映され、大変有意義な場となりました。今後も、本共同企画を続けていく予定です。

（メディア・コミュニケーション研究院）

やさしい日本語を使った美唄市民との交流会

実施日：11月9日（土）

会場：美唄市民ふれあいサロン

参加者：本学学生15名、美唄市民20名



美唄市民との交流会

令和元年度低温科学研究所公開講座 「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」が終了

低温科学研究所では、9月30日（月）から11月18日（月）までの毎週月曜日、全6回にわたって、公開講座「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」を実施しました。

本講座は、「低温」をキーワードに、植物、氷、雪、宇宙、冬眠まで広

大な低温科学の魅力について、各講師が講義を行いました。

20代から90代まで、計53名の幅広い層の方々に参加いただき、また、各回とも受講者の方々からは多くの熱心な質問が寄せられ、盛況のうちに終了しました。

来年度以降も多くの皆様楽しんでいただけるよう、より充実した公開講座を目指してきたいと思います。

（低温科学研究所）

講義題目・講師

第1回 9月30日（月）

災害としての雪、資源としての雪 石井 吉之 助教

第2回 10月7日（月）

宇宙空間における物質進化 日高 宏 助教

第3回 10月21日（月）

コンピュータの中の気象：雲・降水の数値シミュレーション 川島 正行 助教

第4回 10月28日（月）

海氷上に咲く「霜の華」フロストフラワーの化学 的場 澄人 助教

第5回 11月11日（月）

冬眠する哺乳類のからだの秘密を探る～遺伝子からのアプローチ 山口 良文 教授

第6回 11月18日（月）

植物はなぜ葉を保つのか？ 枯らすのか？ 小野 清美 助教



講義風景（第2回）



講義風景（第6回）

理学研究院で消防訓練を実施

理学研究院では、令和元年11月7日（木）に消防訓練を実施しました。当日は、朝からの降雨・降雪に加え強風が吹く肌寒い天候の中、12時10分に6号館2階から出火した想定で、堀口健雄理学研究院長を隊長とする事務部で構成された自衛消防隊による通報連絡、非常放送、初期消火、避難誘導、救護等の総合的な訓練を実施し、教職員・学生約150名が参加しました。

訓練終了後には、堀口研究院長から、訓練参加者及び協力者への慰労の辞と、昨今、沖縄の首里城を初めとする「大火」が頻発しており、理学研究

院でも平成27年度及び28年度に立て続けに「ボヤ」が発生したという経緯を踏まえ、今一度、日頃からの点検、及び防災に対する意識を啓発する挨拶が

あり、今後も常に安全確認を行っていただきたいとの要請がありました。

（理学院・理学研究院・理学部）



消火班による初期消火（放水）の様子



消火器操作訓練

薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行

薬学研究院・薬学部では、11月8日（金）に本研究院並びに本学部の教育と研究のために供された実験動物の慰霊祭を臨床薬学講義室にて執り行い、教員、学生など約150名の関係者が参列しました。

慰霊祭では、動物実験委員会委員長の南 雅文教授より実験に供された動物に追悼の辞が述べられ、次いで参列者全員による黙祷及び献花が行われました。生命科学及び薬学の教育や研究の発展のために多大な貢献をした動物の霊への供養がしめやかに執り行われました。

（薬学研究院・薬学部）



追悼の辞を述べる南委員長



献花する参列者

スポーツチャンバラ世界選手権大会で本学職員及び学生が活躍

本学の公認学生団体「スポーツチャンバラ部翠剣会」の監督を務める北キャンパス合同事務部係長の近藤哲仁選手が、令和元年11月3日（日）、東京都世田谷区にある駒沢オリンピック公園総合運動場体育館において開催された「第44回スポーツチャンバラ世界選手権大会」（主催:国際スポーツチャンバラ協会）に出場し、見事「短槍・杖の部」の種目別優勝者となりました。

近藤選手は、平成22年8月22日に開催された第36回世界選手権大会において「長剣フリー三段以上の部」で優勝しており、9年ぶりに世界王者の栄冠を手に入れました。

近藤選手は「学生の指導を続けていたことが自分の鍛錬にもなった。今後本学から世界で活躍できる選手を輩出するため指導を続けるとともに、自

らも精進を怠らず競技を続けていきたい」とさらなる意気込みを述べました。

また、本学法学部3年の関口将貴選手は、昨年優勝した「長巻の部」で2年連続の決勝進出を果たすも、惜しくも準優勝となりました。

関口選手は「大会2連覇を逃して悔しいので来年は再び優勝できるように、今まで以上に練習に力を入れたいです」と、来年に向けて雪辱を誓っていました。

（北キャンパス合同事務部）



短槍を構える近藤選手



銀メダルを手にする関口選手（左）

北方生物圏フィールド科学センターで 「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催

7月27日（土）～9月28日（土）に、生物生産研究農場、雨龍研究林及び七飯淡水実験所において、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催しました。

本事業は、小学校5・6年生、中学生、高校生を対象に、科学研究費助成事業の研究成果をもとに、最先端の研究成果について直に見て、聞いて、触れることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムとして、独立行政法人日本学術振興会からの支援を受けて実施しています。

以下に、今回実施された3件のプログラムを紹介します。

（北方生物圏フィールド科学センター）

体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”

7月27日（土）に、生物生産研究農場において、「体験！ベリー研究の最前線 “君も育種家になろう！”」を開催しました。農場で実際の作物に触れ、果実を味わいながら、品種改良の基本を学ぶというプログラムで、中学生18名が参加しました。

午前中は、農場内で様々なベリー類（小果樹）を探索し、味の違いや特性について学習した後、植物の交配実験に取り組みました。小さなピンセットを使い、花粉を雌しべの先端に付着させるという繊細な作業ですが、参加者は集中して上手にこなしていました。

参加者とスタッフと一緒に昼食をとり、午後は4班に分かれて、4つの実験を順番に行いました。まず、「生きた花粉が伸びる様子を捉えよう」では、顕微鏡で観察しながら、1分毎に花粉管の長さを測定しました。参加者は、見る間に花粉管が伸びていく様子に驚いていたようです。次に、「パラピン紙で交配袋を作ろう」では、目的以外の花粉が雌しべにつかないようにするための袋を作製し、「果実の糖度とpHを測ってみよう」では、測定機器を操作して、農場で収穫したベリー類の糖度とpHの測定を行いました。

最後に、「シーベリーのタネを採ろう」では、シーベリーの枝から果実を収穫し、茶こしを使って果実を取り出す方法を体験しました。果実は持ち帰って、各自でタネまきをして育ててもら予定です。

実験終了後は、ベリーソースとアイスクリームを堪能し、プログラムは終了となりました。本プログラムが、夏休みの自由研究のヒントになれば幸いです。参加者の皆様、ありがとうございました。そして、企画を支えていただきました事務担当者やスタッフの皆様にも深く感謝いたします。



シーベリーを収穫



顕微鏡を使って花粉管の長さを測定



生き物の個性から学ぶ豊かな森の守り方

8月18日（日）に、雨龍研究林（幌加内町）において、「生き物の個性から学ぶ豊かな森の守り方」を開催しました。これは、「若手研究（A）：景観群集ゲノミクス・アプローチによる群集生態－進化動態の統合的解明」「若手研究（B）：フィールドにおける群集と進化のフィードバックループの解明」（研究代表者：内海俊介准教授）の成果をもとにした企画です。「生き

物の個性」というキーワードを切り口に、森林生態系における遺伝子から生物群集にいたる生物多様性の階層性とその維持・創出の仕組みについて、遺伝子実験とフィールド実習を通して体感し、最先端の研究に触れてもらうという内容で、3回目の開催となります。今回は、道内各地（札幌市、旭川市、深川市、士別市、名寄市、下川町）と本州から、中学生7名・高校生



はじめてのマイクロビペット操作

15名が集まりました。

午前中は、雨龍研究林庁舎内で、シロツメクサを用いた簡易な遺伝子実験に取り組みました。どこにでもあるシロツメクサですが、微量ながらも有毒な物質を生産する植物で、その生産性の有無は遺伝的に決まることから、遺伝子の変異を調べる実験を行いました。実験結果が出るまで、午後は、同じ種であっても遺伝的に多様な生物、そしてさまざまな関わり合いをはぐくむ生物群集について学ぶため、ブトカマベツ川とその河畔林を中心としたヒトの手の入っていない壮大な現場にて、ゲームのクエスト要素を取り入れたフィールド実習を行いました。奇妙な形態をした川虫、その寄生虫、ハン

ノキの根元に共生するバクテリアがつくり出す奇異な粒々（根粒）、葉を食べるテントウムシなどをチームで協力しながら探査し、ダイナミックな水と森の環境と生き物の姿に興奮の連続でした。その後は庁舎に戻り、遺伝子実験の結果を確認すると、シロツメクサの目には見えない遺伝的な多型についてクリアな結果が得られ、受講生一同から驚きの声があがりました。最後に、実験結果の整理と一連のプログラムの解説を中心としたミニ講義を行い、参加者は、分子から生態系にいたる生命現象の階層性とそのフィードバックについて、難しいながらも多くのことを学んでいたようです。

今回は、遠方からも多くの受講生が

集まり、アンケートからも、「川を渡って採集することが初めてでとても楽しかったです。研究はコツコツと集めていくものだと知って大変だと思いました（高校生）」「今回は体験をとおりしていろいろなことを学ぶことができ、将来自分も研究してみたいと思いました（高校生）」「難しい内容を楽しく学べてよかったです！（中学生）」「いろいろな遺伝子があるということにびっくりした。川でいろんな虫をつかまえてたのしかった。また参加したい（中学生）」など、高い満足度が感じられました。本プログラムを実施するにあたり、研究林職員3名並びに環境科学院大学院生4名には惜しみない協力をいただき、感謝いたします。



真剣そのもの



川を渡り森へ



楡の大樹木の前で

挑戦！イクラをさかなにしてみよう！

9月28日（土）に、七飯淡水実験所（亀田郡七飯町）において、小学5・6年生から中学生を対象とした、「挑戦！イクラをさかなにしてみよう！」を開催しました。これは、科学研究費補助金「雑種ゲノムの発生工学的解析による育種利用に関する研究」（研究代表者：山羽悦郎教授）の成果のもと、大学で取り組んでいる研究を体験してもらうという5年連続の企画で、本年度は、札幌市、函館市、七飯町の小中学生5名が参加しました。

午前中は、最初に、実験所の研究の一部が科学研究費を使って進められている現状や歴史とこれまでの研究成果、研究材料として使われてきた魚たちの説明を行いました。その後、所内を探検し、池からすくった様々なサケマス類を観察して、特徴や稚魚の飼育方法を紹介しました。また、成熟したサクラマスからの採卵・採精と、精液を顕微鏡で観察し水を加えると精子が

泳ぎ始めることを理解してもらいながらの受精を行い、卵は受精前には指で簡単につぶすことができますが、受精するとピンポン球のように弾むほど固くなることを体験しました。

昼食では、受講者自身が魚（カッスロートトラウト）を調理し、炭火で塩焼きにしましたが、小中学生は、箸で塩焼きを食べるのに悪戦苦闘していました。他に、実験所が用意した刺身やイクラの醤油漬けなどの鮭料理を堪能していました。

午後は、昼食の魚の骨を観察した

り、魚の背大静脈から注射器を使って採血を行いました。採った血を顕微鏡で観察して、魚の赤血球には核があることを確認しました。次に、活きた魚の尾柄からワイヤを差し込んで活け締めにし、美味しい刺身を食べるために必要な技術を学びました。その後は、TAや大学院生の指導を受けながら解剖実験を行い、内臓の種類、形、つながり、心臓の構造と血の流れ、目の構造と脳とのつながりを調べました。

途中のおやつタイムを挟み、卵黄を持っている赤ちゃん魚を顕微鏡で観察



養魚池の魚を網で掏う参加者



昼食の様子

し、血液がからだの中を循環する様子を
確認して、プログラムは終了となり
ました。当日自分たちが受精させた卵
と、一か月前に受精させた卵を各家庭
に持ち帰り、魚となる様子を観察する
ため飼育してもらうこととしました。

今回のプログラムでは、主役の子ど
もたちをもち立てるため、事務や実験
所の職員、指導補助の学生に奮闘いた
だき、ありがとうございました。



解剖実習

天塩研究林で「ヒグマしり隊！～問寒別のヒグマを知ろう～」を開催

北方生物圏フィールド科学センター
森林圏ステーション天塩研究林では、
11月3日（日）に、「ヒグマしり隊！～
問寒別のヒグマを知ろう～」を開催し
ました。主に、天塩研究林が所在して
いる幌延町や近隣町村の住民を対象
に、北大ヒグマ研究グループの活動や
ヒグマの生態について学んでいただく
ことを目的として開催し、幌延町内外
から18名の参加がありました。

当日は、北大ヒグマ研究グループか
ら、3つの発表がありました。はじめ
に、「ヒグマについて」として、繁殖
や子育て、天塩研究林のヒグマの食
性、食物の季節による変化が、調査結
果に基づき解説されました。参加者

は、実際に骨や毛皮に触れることで、
ヒグマに対する理解を深めました。

次に、「同グループの紹介」では、
北大ヒグマ研究グループが1973年から
46年間天塩研究林で調査を実施してい
ることや、ヒグマのフンや足跡から生
息状況やその経年変化を明らかにして
いることなどを紹介しました。その
後、長期観察の結果に基づいて、春熊
駆除対策を行っていた30年ほど前まで
は少なかったクマの出没件数が近年増
加傾向にあることの説明と、自動撮影
カメラによる動画や写真を用いて、ヒ
グマの行動や最新の研究情報の解説が
ありました。

最後に、「クマと出会わないように

するために」として、調査開始以来無
事故である同グループから、気配に気
をつける、音を出す、笹地など見通し
の悪い場所には注意するなど、ヒグマ
に自分たちの存在を知らせることの重
要性が参加者へ伝えられました。

参加者は熱心に話を聞き、たくさ
んの質問をしていました。終了後、「あ
らためてヒグマとの距離感を確認でき
た」「定期的に開催してほしい」と
いった感想が寄せられたことから、今
後もこのような教育研究活動を紹介す
ることで、天塩研究林と地域住民との
絆を一層深めていきたいと思います。

（北方生物圏フィールド科学センター）



生後3か月の子グマと同じ重さのぬいぐるみを持つ子ども



骨や毛皮の観察



ヒグマの毛皮に触れる参加者

和田修一氏の旧蔵資料を大学文書館で受贈

11月1日（金）及び5日（火）、大学文書館では、和田正博氏から、ご尊父の和田修一氏の旧蔵資料3点（アルバム1冊、戦時中に書かれた手紙と封筒各1点）をご寄贈いただきました。

和田修一氏は、予科工類（1940年4月入学、1942年9月修了）と工学部鉱山工学科（1942年10月進学、1945年9月卒業）で学生生活を送られました。

受贈したアルバムは、予科工類修了を記念したもので、予科教員の肖像写真や、予科生徒を大学構内（教室、実験室、農場、中央ローン、恵迪寮等）や市街地（中島公園、富貴堂、喫茶店等）で撮影した写真が貼付されていま

す。その中には、軍事教練、援農、東条英機首相の来学、防火訓練を写したのももあり、戦時色が強まっていく様子を感じ取ることができます。

手紙は、工学部探鉱学研究室の佐山総平教授が、三菱美唄・三井砂川の炭鉱や帝国砂白金（鷹泊）の鉱山で勤労する学生達に宛てた、1月17日付のものです。勤労先の施設長に対して作業内容の変更と休息を学生に与えるよう進言したこと、近日中に現地訪問を見込んでいること、今後の勤労先に関する意向聴取など、いくつかの連絡事項のほか、ユーモアを交えた労いの言葉と、「世間は努力奮闘のルツボであ

り、之れを生き抜くのが人生の楽しみである事は、忘れてはならぬ」といった激励の言葉を、佐山教授は学生達にむけて方眼紙の両面いっぱい綴っています。

封筒は、和田修一氏（工学部応用地質学研究室）が、帝国砂白金の雨竜鉱業所（鷹泊）にいる学生達に宛てた、1945年2月1日付のものです。

今後、ご寄贈いただいた資料は、大学文書館において大切に保管し、展示や閲覧利用等を通じて紹介してまいります。

（大学文書館）



恵迪寮にて



中央ローンにて



富貴堂にて



農場でのアルバイト



消防訓練



戦時中の手紙・封筒

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和元年11月18日）

議 案・国際連携研究教育局（GI-CoRE）新規グローバルステーションの設置方針について
・国際連携研究教育局（GI-CoRE）各グローバルステーションの部局等への定着化後における教員配置等の在り方（指針）について
協議事項・重要な財産を譲渡する計画について

役員会（令和元年11月25日）

報告事項・会計検査院による会計実地検査の結果について
・2019年度中間決算について
・令和元年度病院収支見込（中間決算時点）について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程

（令和元年11月12日海大達第204号）

新渡戸カレッジにおいて、学部教育コースと大学院教育コースの連携を図り早期履修制度を実施することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学病院規程の一部を改正する規程

（令和元年12月1日海大達第205号）

令和元年12月1日付けで、北海道大学病院に医療機器開発推進センターを設置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

■ 研修

研修名：令和元年度北海道大学教務事務実務研修

開催期間：令和元年11月7日（木）～令和元年11月8日（金）

開催場所：高等教育推進機構大会議室

研修目的：大学の教務事務は複雑多岐にわたることから、担当職員に教務事務の円滑な処理に必要な知識及び教務系職員の基礎知識を習得させるとともに、教務事務について協議・意見交換を行うことにより、教務事務に携わる職員の意識及び資質の向上を図ることを目的とする。



開講式で挨拶する関 靖直理事・事務局長



グループ討議の様子

（高等教育研修センター・学務部）

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
1.11.7	駐日チェコ共和国大使館 Martin Tomčo大使	両国の交流に関する懇談
1.11.15	オウル大学（フィンランド）Jouko Niinimäki学長， ラップランド大学（フィンランド）Mauri Ylä-Kotola学長	両大学の交流に関する懇談



Martin Tomčo 駐日チェコ共和国大使（中央）



オウル大学（フィンランド）Jouko Niinimäki
学長（中央右）
ラップランド大学（フィンランド）Mauri Ylä-
Kotola学長（中央左）

（国際部国際連携課）

人事

令和元年12月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 大学院工学研究院教授 大学院医学研究院教授 高等教育推進機構教授	渡 部 靖 憲 青 山 英 史 鄭 恵 先	大学院工学研究院准教授 新潟大学大学院医歯学総合研究科教授 高等教育推進機構准教授

新任教授紹介

令和元年12月1日付



工学研究院教授に

わたなべ やすのり
渡部 靖憲 氏

環境フィールド工学部門
水圏環境工学分野

生年月日

昭和45年 3 月21日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了(平成 9 年 3 月25日)
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

海岸工学，流体力学



医学研究院教授に

あおやま ひでふみ
青山 英史 氏

放射線科学分野放射線治療学教室

生年月日

昭和44年 1 月26日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科博士課程修了(平成14年 3 月)
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

放射線科学



高等教育推進機構教授に

ちよん へそん
鄭 恵先 氏

国際教育研究部／日本語教育ユニット

最終学歴

大阪府立大学大学院人間文化学研究科博士後期課程修了(平成15年 3 月)
博士（学術）（大阪府立大学）

専門分野

日本語学

訃報

教授 ^{あきやま}秋山 ^{ともひろ}友宏 氏
(享年60歳)



教授 秋山友宏氏が、令和元年11月6日にご逝去されました。

先生は、昭和33年11月20日に北海道に生まれ、昭和58年3月北海道大学工学部金属工学科を卒業、昭和60年3月同大学大学院工学研究科修士課程を修了し、同年4月東北大学選鉱精錬研究所助手に採用され、平成3年12月に東北大学から博士（工学）の学位を授与されました。平成4年4月東北大学素材工学研究所助手に配置換、平成9年

1月講師に昇任し、同年4月宮城工業高等専門学校機械工学科助教授に転任、平成12年4月大阪府立大学大学院工学研究科助教授を経て、平成16年10月北海道大学エネルギー変換マテリアル研究センター教授、平成22年4月同大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター教授に配置換になり、学術の発展に尽力されてきました。

先生は金属生産工学、化学工学、材料科学など広範な領域で研究を展開されてきました。特に、新たな熱力学的指標「エクセルギー」に基づくエネルギーシステム設計概念を先駆的に導入し、鉄鋼製錬プロセスの省エネルギー化、新製鉄プロセス、工業廃熱のオフライン蓄熱輸送技術の確立、廃棄物・廃熱からの水素製造技術の確立、および燃焼合成法などに関する多数の画期的研究を行い、その基礎並びに応用研

究を発展させると同時に大学発ベンチャーを起業し、自身の研究成果の社会還元および産学連携を先駆的に推進されてきました。また、各種学協会活動などにも積極的に関わり、学会の理事等の要職を歴任されてきました。

教育面では、材料科学専攻において講義、演習および研究論文の指導を行い、教授にご着任以降、18人ものPh.Dを輩出しました。

以上のように、先生は、金属生産工学、化学工学、材料科学分野の研究活動、学協会活動及び教育活動に尽力され、「自分のやりたいことだけを徹底的にやれ!」と全ての人を鼓舞し、人材育成にも多大な貢献をされました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(工学研究院)

名誉教授 ^{きむら}木村 ^{ひろし}汎 氏
(享年83歳)



名誉教授 木村汎先生が、令和元年11月14日にご逝去されました。

先生は、昭和11年6月19日に京城府（現在のソウル市）でお生まれになりました。昭和30年に京都大学法学部に入学され、同大学の大学院に進学されましたが、博士号は昭和43年に米国コロンビア大学で取得されました。昭和45年に北海道大学法学部助教授となられ、スラブ研究センターの前身である法学部附属スラブ研究施設で研究をさ

れるようになりました。以後平成3年3月に退職されるまで、21年間にわたってスラブ研究センターに勤められました。昭和50年10月から昭和52年9月まで法学部附属スラブ研究施設長、昭和60年4月から昭和62年3月までスラブ研究センター長を務められました。昭和50年代から60年代にかけてスラブ研究センターは国内的にも国際的にも著しく発展しましたが、先生はそのプロセスに大きく貢献されました。北海道大学退職後は、平成3年から国際日本文化研究センター教授、平成14年から拓殖大学海外事情研究所教授を歴任されました。

先生は、わが国の対ロシア外交研究の第一人者として学界を牽引されてこられました。とくに北方領土問題にかかわる研究や提言で知られており、日本の対外政策決定にも少なからぬ影響を与えてこられました。ロシアの対

中、対米関係にも造詣が深く、とくに交渉とは何かという観点から外交を省察されておられました。近年はプーチンの政治の研究に労力をさかれ、プーチン3部作をはじめとする大著を次々と刊行されました。先生のがわが国のソ連・ロシア研究に対する貢献には大変大きなものがありますが、なかでも世界のソ連（ロシア）・東欧研究を束ねる学会であるICCEES（国際中欧・東欧研究協議会）の日本代表を昭和55年から平成17年まで25年間務め、日本のソ連・ロシア研究の国際化を推進されたことが特筆されます。これらのご功績に対し、平成28年春には瑞宝中綬章を受章されています。

先生の多大なるご貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

(スラブ・ユーラシア研究センター)

資料

令和元年度外国人留学生数

【部局別】

学部等

令和元年11月1日現在

部 局 名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合 計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文 学 部	1(1)	1(1)				116(82)	118(84)
教 育 学 部					1(1)	26(21)	27(22)
法 学 部					1	18(13)	19(13)
経 済 学 部		1(1)			3(1)	50(34)	54(36)
理 学 部			1		19(7)	14(5)	34(12)
医 学 部	1					2(1)	3(1)
薬 学 部	1				1		2
工 学 部	31(3)		7(4)	4(1)	13(1)	31(6)	86(15)
農 学 部					6(5)	11(4)	17(9)
獣 医 学 部						1(1)	1(1)
水 産 学 部					2(2)	12(6)	14(8)
総合教育課程	15(3)				31(13)		46(16)
現代日本学プログラム	1				41(30)		42(30)
合 計	50(7)	2(2)	8(4)	4(1)	118(60)	281(173)	463(247)

大学院等

部 局 名	国費留学生			外国政府派遣留学生			私費留学生				合 計
	修士課程	博士後期課程	研究生等	修士課程	博士後期課程	研究生等	修士課程	専門職大学院	博士後期課程	研究生等	
文 学 院	2(1)	3(1)					42(27)		9(6)	11(9)	67(44)
文 学 研 究 院			2(2)							4(4)	6(6)
法 学 研 究 科	1(1)	7(3)			2		47(44)		38(22)		95(70)
法 学 研 究 科		1(1)			1		37(20)		10(2)	32(21)	81(44)
情報科学研究科	1	2(1)			2(1)		14(3)		11(2)	2(1)	32(8)
情報科学研究科			2							11(4)	13(4)
情報科学研究科	1(1)	5(1)			3(1)		27(3)		26(12)		62(18)
水産科学研究科	1(1)	5			2(1)		17(9)		16(6)	1(1)	42(18)
環境科学研究科										2	2
地球環境科学研究科	7(2)	12(6)			5(3)		77(32)		62(28)	7(5)	170(76)
理 学 研 究 院	3(1)	14(5)					29(16)		33(8)	2(2)	81(32)
理 学 研 究 院			1(1)			1(1)				11(3)	13(5)
農 学 研 究 院	9(7)	17(11)			3(2)		41(20)		49(19)	4(2)	123(61)
農 学 研 究 院			2(1)							14(8)	16(9)
生命科学研究科	3(2)	22(6)		1	2(1)		47(26)		32(12)	1	108(47)
先端生命科学研究所										1(1)	1(1)
教育学研究科	1(1)	1			1(1)		39(28)		17(13)	1(1)	60(44)
国際広報メディア・観光学院			1(1)							3(2)	4(3)
メディア・コミュニケーション研究院	4(4)	3(2)					80(63)		22(14)	5(4)	114(87)
保健科学研究科		2(2)					17(13)		5(4)		25(20)
保健科学研究科			1(1)							18(11)	24(19)
工 学 研 究 院	20(3)	22(6)		1(1)	16(5)	1(1)	107(34)		67(19)	24(6)	258(75)
工学研究科			1							37(11)	38(11)
総合化学研究科	2(1)	6(5)			6(3)		35(10)		52(19)		101(38)
経 済 学 研 究 院	6(2)	5(2)					81(59)	11(7)	9(7)	5(4)	117(81)
経済学研究科										2(1)	2(1)
経済学研究科									1		1
医学研究科	1	7(5)			1(1)		6(2)		22(12)		37(20)
医学研究科						1(1)				4(2)	5(3)
医学研究科		2(1)			1				5(4)		8(5)
歯 学 研 究 院		1(1)							11(6)		12(7)
歯 学 研 究 院										10(8)	10(8)
歯 学 研 究 科									3(2)		3(2)
獣 医 学 研 究 院		13(4)							9(4)		22(8)
獣 医 学 研 究 院										2(2)	2(2)
獣 医 学 研 究 科		6(3)							8(5)		14(8)
医 理 工 学 研 究 院		1							5(1)		6(1)
国際感染症学研究所		14(8)							9(2)		23(10)
国際食資源学研究所	1	1(1)					6(2)		3(3)	1	12(6)
公共政策学教育推進機構								19(13)			19(13)
公共政策学連携研究部										4(1)	4(1)
人獣共通感染症リサーチセンター										1	1
量子集積エレクトロニクス研究センター										2(1)	2(1)
アイヌ先住民研究センター			1(1)								1(1)
低温科学研究所			1(1)							2(2)	3(3)
電子科学研究所			1			1(1)				3(1)	5(2)
遺伝子病制御研究所										5(3)	5(3)
触媒科学研究所			1							8	9
スラブ・ユーラシア研究センター										1(1)	1(1)
情報基盤センター										3(1)	3(1)
北方生物圏フィールド科学センター			1							7(5)	8(5)
高等教育推進機構			1							4(1)	5(1)
合 計	63(27)	172(75)	17(8)	2(1)	45(19)	4(4)	749(411)	30(20)	534(232)	306(164)	1,922(961)

日本語研修生等

高 等 教 育 推 進 機 構	日本語・日本文化研修生			日 本 語 研 修 生		合 計
	国 費	外国政府派遣	私 費	国 費	私 費	
	25(14)	3(3)	33(25)	11(2)	20(14)	92(58)

外国人留学生等

学部留学生数	大 学 院 留 学 生			研究生等	日 本 語 研 修 生 日本語・日本文化研修生	留学生総数	外国人学生 〔「留学」以外〕	留学生及び外国人学生 総 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
176(71)	814(439)	30(20)	751(326)	614(352)	92(58)	2,477(1,266)	53(24)	2,530(1,290)

* () 内は女子を内数で示す

(学務部国際交流課)

令和元年度国別外国人留学生数

令和元年11月1日現在

地域	国 (地名)	国費留学生						外国政府派遣留学生						私費留学生										小計	総計		
		学部		大学院		小計		学部		大学院		小計		学部		大学院		小計		小計	総計						
		学士	研究生	日本文化 研修生	日本語 研修生			大 学 院 修 士	研 究 生	日本語 研修生	大 学 院 修 士			研 究 生	日本語 研修生	大 学 院 修 士	研 究 生					日本語 研修生	大 学 院 修 士			研 究 生	
アジア	インド				7(3)	6(2)	1(1)	14(6)					0(0)	2(2)				8(1)	23(8)			33(11)	47(17)				
	インドネシア							17(8)					0(0)	1	3(1)			14(6)	22(7)		1(1)	1	42(15)				
	カンボジア	2						4(1)					0(0)					1	4(2)			5(2)	9(3)				
	シンガポール				1(1)			1(1)					0(0)	5(3)								5(3)	6(4)				
	スリランカ			1(1)		5(1)		6(2)					0(0)					7(5)				7(5)	13(7)				
	タイ	2(1)		3(3)		4(1)	11(5)	20(10)	1				1(0)	8(5)		3(2)		7(1)	22(10)		1(1)	1(1)	42(20)				
	ネパール					3(1)		3(1)					0(0)					2(1)				2(1)	5(2)				
	パキスタン					1	3	4(0)					0(0)	2(1)								2(1)	6(1)				
	バングラデシュ					2(1)	20(6)	1	23(7)				0(0)									30(12)	53(19)				
	フィリピン	1			3(2)	8(2)		12(4)					0(0)					5(3)	24(9)		1		13(9)				
	ブータン							0(0)					0(0)					5(3)	8(6)		1		1(0)				
	ブルネイ				1	1(1)		2(1)					0(0)								1		0(0)				
	ベトナム	1(1)				1	9(4)		11(5)				0(0)	5(4)	1(1)			3(3)	20(7)	1(1)	1		31(16)				
	マレーシア	1				8(6)		9(6)	7(4)				7(4)	2(1)				8(2)	7(4)				17(7)				
	ミャンマー			1(1)		2(1)	4(4)		7(6)				0(0)	1(1)					5(3)		1(1)		7(5)				
	モンゴル	1					7(6)		8(6)				0(0)				1(1)	4(3)	7(3)				12(7)				
	ラオス							0(0)					0(0)					2(1)					2(1)				
	台湾							0(0)					0(0)	6(4)	3(2)	26(17)	2(1)	2(2)	17(12)	19(6)	1	6(5)	3(1)	90(53)			
	大韓民国	32(2)		2(1)	7	2(1)	2(1)	45(5)					0(0)	10(1)	2(2)	39(13)		1(1)	19(7)	45(14)		4(2)	1	122(41)			
	中華人民共和国	2(1)		2(1)	25(10)	7(3)	36(15)	4(1)	3(3)	2(1)	45(19)	2(2)	2(2)	58(28)	35(12)	103(76)	55(36)	19(15)	1(1)	623(358)	253(127)	28(19)	178(101)	18(11)	8(6)	33(14)	1,449(819)
	小計(14国)	40(4)	0(0)	9(7)	8(1)	29(13)	127(55)	9(4)	22(8)	8(4)	4(1)	3(3)	2(1)	66(32)	77(34)	109(81)	123(67)	25(19)	4(4)	716(400)	468(212)	30(20)	193(110)	23(14)	15(9)	34(15)	1,818(985)
オーストラリア				2(2)			2(2)						0(0)	2(2)		3(3)	2(1)				1(1)		8(7)				
トンガ		1(1)					1(1)						0(0)									0(0)	1(1)				
ニュージーランド							0(0)						0(0)	1								1(0)	1(0)				
バグリアニューギニア				1			1(0)						0(0)									0(0)	1(0)				
フィジー							0(0)						0(0)					1(1)		2		3(1)	3(1)				
ミクロネシア							0(0)						0(0)					1				1(0)	1(0)				
小計(6国)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	3(2)	0(0)	4(3)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	3(2)	0(0)	3(3)	2(1)	0(0)	2(1)	0(0)	2(0)	1(1)	0(0)	0(0)	13(8)			
大洋州	アゼルバイジャン					1		1(0)					0(0)									0(0)	1(0)				
	アルメニア			1(1)				1(1)					0(0)									0(0)	1(1)				
	イタリア					1(1)		1(1)					0(0)	1(1)		1	2(1)					4(1)	10(4)				
	ウズベキスタン		1		2			3(0)					0(0)					1				0(0)	3(0)				
	エストニア							0(0)					0(0)		2							2(0)	2(0)				
	オランダ							0(0)					0(0)	2(2)		1					1	4(2)	4(2)				
	カザフスタン			1(1)		1(1)		1(1)					0(0)		2(2)							2(2)	3(3)				
	キルギス					1		1(0)					0(0)				2(1)					2(1)	3(1)				
	スイス							0(0)					0(0)									1(0)	1(0)				
	スウェーデン							0(0)					0(0)	3(2)		2(1)					2	7(3)	7(3)				
	スペイン				2			2(0)					0(0)			1(1)		1	1	2(1)		5(2)	7(2)				
	スロベニア							0(0)					0(0)	1								1(0)	1(0)				
	セルビア		1				1	2(0)					0(0)	1								1(0)	3(0)				
	タジキスタン		1(1)					1(1)					0(0)									0(0)	1(1)				
	チェコ					1		1(0)					0(0)									0(0)	1(0)				
	デンマーク							0(0)					0(0)	1(1)					1			2(1)	2(1)				
	ドイツ		1					1(0)					0(0)	1(1)		5(1)		3(2)	1			15(6)	16(6)				
	トルクメニスタン		1		1			2(0)					0(0)									0(0)	2(0)				
	ノルウェー							0(0)					0(0)			1						2(0)	2(0)				
	ハンガリー				1			1(0)					0(0)	1(1)		2			3(2)			6(3)	7(3)				
	フィンランド							0(0)					0(0)	6(5)	1	1(1)			1(1)		2(2)	11(9)	11(9)				
フランス							0(0)					0(0)	2(1)		7(4)	1(1)		1	2		4(1)	17(7)					
ブルガリア							0(0)					0(0)	1								1(0)	1(0)					
ベラルーシ							0(0)					0(0)						1(1)			1(1)	1(1)					
ポーランド	1		2(1)		2(1)		5(2)					0(0)						1			2(1)	7(3)					
ポルトガル					1(1)		1(1)					0(0)										0(0)	1(1)				
マケドニア							0(0)					0(0)	1									1(0)	1(0)				
ラトビア						1(1)		1(1)				0(0)			1(1)							1(1)	2(2)				
リトアニア			1		1(1)		2(1)					0(0)										0(0)	2(1)				
ルーマニア					1(1)		1(1)					0(0)										0(0)	1(1)				
ロシア		1(1)	1(1)		3(3)	1(1)	2(2)	8(8)				0(0)		3(3)	1(1)	1(1)		4(2)		1	11(7)	21(14)					
小計(32国)	1(0)	1(1)	14(6)	0(0)	8(4)	12(5)	3(2)	28(18)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2	4(2)	2	2(1)	2	2(1)	0(0)	5(3)	26(11)	0(0)	0(0)	10(3)	13(3)	
アフリカ	アルジェリア							0(0)					0(0)	23(14)	1(0)	33(16)	4(3)	7(3)	7(2)	18(7)	0(0)	0(0)	5(3)	26(11)	0(0)	0(0)	124(59)
	アンゴラ							1(0)					0(0)					1(1)					1(1)	1(1)			
	ウガンダ	1						1(0)					0(0)										0(0)	1(0)			
	エジプト				2(2)	3(2)		5(4)					0(0)						4(3)		1(1)	1	6(4)				
	エチオピア							0(0)					0(0)						1(1)				1(1)	1(1)			
	エリトリア					1(1)		1(1)					0(0)									0(0)	1(1)				
	ガーナ					1		1(0)					0(0)									0(0)	1(0)				
	カーボヴェルデ				2(1)	1		3(1)					0(0)									0(0)	3(1)				
	ギニア				1			1(0)					0(0)									0(0)	1(0)				
	ケニア					1(1)		1(1)					0(0)					1(1)	1(1)			2(2)	3(3)				
	コートジボワール							0(0)					0(0)						1			1(0)	1(0)				
	コンゴ民主共和国				1			1(0)					0(0)						2			2(0)	3(0)				
	ザンビア				2	6(3)	1(1)	9(4)					0(0)					3(1)	7(2)		2	13(3)	22(7)				
	ジンバブエ							0(0)					0(0)						1			1(0)	1(0)				
	スーダン					1(1)		1(1)					0(0)									1(0)	2(1)				
	タンザニア					1(1)	1	2(1)					0(0)						1			1(0)	3(1)				
	チュニジア				1(1)			1(1)					0(0)						1			1(0)	2(1)				
	ナイジェリア	1			4(2)	2		7(2)					0(0)		6(3)				4	10(1)		1	21(4)				
	ナミビア				1(1)			1(1)					0(0)					1(1)					1(1)	2(2)			
	ブルキナファソ					1		1(0)					0(0)														

北大時報掲載記事事項別一覧（令和元年掲載分）

表紙

- 1月号 ・ Science Lecture 2018を開催
- 2月号 ・ 新学際大規模計算機システム運用開始記念式典を挙行
- 3月号 ・ 一般入試前期日程の合格発表（2019.3.7）
- 4月号 ・ 平成31年度入学式
- 5月号 ・ 新入留学生オリエンテーションを実施
- 6月号 ・ 植物園の夏期開園及び無料開園の実施
- 7月号 ・ 5 研究所・センター合同で一般公開を開催
- 8月号 ・ 「ホリデーイン日高2019」を開催
- 9月号 ・ 令和元年度オープンキャンパスを開催
- 10月号 ・ ホームカミングデー2019
- 11月号 ・ 医学部創立100周年記念事業
- 12月号 ・ 美唄市との共同プロジェクト「やさしい日本語を使った美唄市民との交流会」を実施

裏表紙

- 1月号 ・ 北の鉄道風景（70）列車交換
- 2月号 ・ 北の鉄道風景（71）特急北斗，一瞬の邂逅
- 3月号 ・ 北の鉄道風景（72）塘路湖冬景色
- 4月号 ・ 北の鉄道風景（73）残雪を抱く蝦夷富士
- 5月号 ・ 北の鉄道風景（74）咲き誇る梅の花
- 6月号 ・ 北の鉄道風景（75）E5系とH5系
- 7月号 ・ 北の鉄道風景（76）豊穡の水田地帯
- 8月号 ・ 北の鉄道風景（77）最後の夏を迎えて
- 9月号 ・ 北の鉄道風景（78）初秋の山線を往く特急列車
- 10月号 ・ 北の鉄道風景（79）秋の夕日に照るクルーズトレイン
- 11月号 ・ 北の鉄道風景（80）初冬の山線を往くリゾート列車
- 12月号 ・ 北の鉄道風景（81）雪晴れの森を駆ける

総長告辞等

- 4月号 ・ 告辞（学士学位授与式，入学式）

全学ニュース

- 1月号 ・ 大学入試センター試験の実施
- ・ 第21回北海道大学－ソウル大学校ジョイントシンポジウムを開催
 - ・ 分科会 1 The 7th HU-SNU Joint Symposium on Materials Science and Engineering 第7回材料科学に関する合同シンポジウム
 - ・ 分科会 2 2018 International Workshop on New Frontiers in Convergence Science and Technology 2018 複合領域科学及び技術に関する国際ワークショップ
 - ・ 分科会 3 The 13th HU-SNU Joint Symposium on Mathematics: Probability and Functional Analysis 第13回・HU-SNU数学に関するジョイントシンポジウム：確率論と関数解析
 - ・ 分科会 4 2018 Changing Role and Functions of the Dental Library in the Future これからの歯学図書館の役割と機能の改変について
 - ・ 分科会 5 Collective Memory, History, and Sociology 集合的記憶と歴史，社会学
 - ・ 分科会 6 2018 NTNU-KU-SNU-HU Joint Symposium on Science Education North-South Conference in STEM Education: Emerging Trends for New Asia 2018 NTNU-KU-SNU-HU 理科教育ジョイントシンポジウム STEM教育の南北会議：アジアの最新動向
 - ・ 分科会 7 Toward Understanding of Changing Environment in a Warming World 東アジア域の変わりゆく環境の理解に向けて
 - ・ 分科会 8 Hokkaido University - Seoul National University Joint Symposium in Ophthalmology 第13回日韓眼科シンポジウム
 - ・ 分科会 9 HU-SNU-MU-WU Joint Course: Environmental Chemicals and Human Health HU-SNU-MU-WU 協同講義：環境化学物質と人びとの健康
 - ・ 分科会 10 6th HUH-SNUH-SHH Joint Symposium 第6回北海道大学病院－ソウル大学校病院ジョイントシンポジウム
- ・ オフナー・フレルスフ・モンゴル国首相が北海道大学を訪問
- ・ 西井理事・副学長が日本経済新聞社「大学改革シンポジウム」に登壇
- ・ 北大フロンティア基金
- ・ 「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業 高校生に向けた講義を実施

- ・ Science Lecture 2018「え?こんなモノがあんな生き物から!?～生き物にまねる, 新たなモノづくり バイオミメティクス～」を開催
 - ・ 北海道大学アンバサダー・パートナー（ベトナム）委嘱状交付式等を開催
 - ・ 平成30年度北海道大学ユニバーシティ・アドミニストレーター育成講座を実施
 - ・ 新渡戸学「フェローゼミ」全体発表会を開催
 - ・ 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第37回「赤い糸会&緑の会」を開催
 - ・ 高等教育研修センターにて研修会を開催
 - ・ 「スマートデバイス・計測・新技術説明会」を開催
 - ・ サステナブルキャンパスマネジメント本部「実験施設に特化した省エネ対策報告会」を開催
 - ・ 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションがフローニンゲン大学と4次元粒子線治療ワークショップを共催
 - ・ 国際連携研究教育局（GI-CoRE）ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション（GSB）が「ビッグデータ・サイバーセキュリティ・IoTに関する国際シンポジウム」を開催
- 2月号**
- ・ 経済学研究院 韓 載香准教授がサントリー学芸賞を受賞
 - ・ 北海道大学一般入試の志願状況
 - ・ AO入試合格者の発表
 - ・ 国際総合入試合格者の発表
 - ・ 北大フロンティア基金
 - ・ 「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業 高校生に向けた講義を実施
 - ・ 情報科学研究科の学生がセイコーマート北海道大学店でロボット同士の会話の実証実験を実施
 - ・ 平成30年度冬季国際交流会～つながる, Connect～を開催
 - ・ 「SDGs×北海道交流セミナー（北海道主催）」で本学の活動発表
- 3月号**
- ・ 平成30年度「北海道大学総長表彰」表彰式を挙行
 - ・ 平成30年度北海道科学技術省に本学関係者ら3氏
 - ・ 北海道大学一般入試（前期日程・後期日程）及び私費外国人留学生入試の実施と合格者の発表
 - ・ 北大フロンティア基金
 - ・ 「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業 高校生に向けた講義を実施
 - ・ 北海道大学広報特派員（広報インターンシップ）制度初の修了生を認定
 - ・ 平成30年度補正予算（第2号）（本学関係分）の主要事項
 - ・ 平成30年度国立大学法人運営交付金の追加配分（本学関係分）の主要事項
 - ・ 2019年度予算案（本学関係分）の主要事項
 - ・ 平成30年度現代日本学プログラム課程卒業論文発表会を開催
 - ・ 高等教育推進機構日本語研修コース修了式（2018年10月入学者）
 - ・ 平成30年度事務職員海外派遣研修受講者による報告会を開催
 - ・ 第1回日露産官学連携実務者会議を開催
 - ・ 日本留学海外拠点連携推進事業主催日本留学フェア（於ロシア連邦・ハバロフスク）を開催
 - ・ ウガンダの首都カンパラで「日本留学フェア」を開催
 - ・ ザンビア共和国ザンビア大学と「第1回大学間交流協定レビュー会合」を開催
 - ・ 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第38回「赤い糸会&緑の会」を開催
 - ・ 「海外サイトビジット（シリコンバレー）」を実施
 - ・ 本学技術職員が分子科学研究所技術研究会にて報告
 - ・ 高等教育研修センターにて研修会を開催
 - ・ 第二農場及び植物園の建築物が耐震改修優秀建築賞を受賞
- 4月号**
- ・ 平成30年度学位記授与式の挙行
 - ・ 総長告辞（学士学位記授与式）
 - ・ 来賓祝辞（学士学位記授与式）
 - ・ 平成31年度入学式の挙行
 - ・ 総長告辞（入学式）
 - ・ 本学永年勤続者表彰に90氏
 - ・ 名誉教授に36氏
 - ・ 平成30年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学から2氏
 - ・ 歯学研究院 佐野英彦教授にHollenback Memorial Prize
 - ・ 平成31年4月 大学院を改組
 - ・ 「広域複合災害研究センター」を設置
 - ・ 2019年度北海道大学の予算
 - ・ 北大フロンティア基金
 - ・ ヘルシンキで北海道大学欧州同窓会懇談会を開催
 - ・ インドネシア・パラカラヤ大学で「2019北海道大学インドネシア同窓会懇談会」及び「北海道大学留学セミナー」を開催
 - ・ 北海道大学アンバサダー・パートナー（中国）委嘱状交付式を2大学で開催
 - ・ 平成30年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式・卒業祝賀会を開催

- ・新渡戸スクール修了式を挙行
 - ・平成30年北大えるむ賞授与式を挙行
 - ・平成30年度北海道大学大塚賞授与式を挙行
 - ・平成30年北大ペンハロー賞授与式を挙行
 - ・平成30年度北海道大学クラーク賞表彰式を挙行
 - ・平成30年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙行
 - ・平成30年度北海道大学企業研究セミナーを開催
 - ・第1回ICReDD国際シンポジウムを開催
 - ・北海道大学交流デー（忠南大学校）を開催
 - ・北海道大学交流デー（中国科学院大学・東北大学）を開催
 - ・APECS-UArctic Science Communication Workshop派遣報告会を開催
 - ・次世代へ向けて～本学技術職員10名が「総合技術研究会2019九州大学」にて技術報告
 - ・「博士人材キャリア開発シンポジウム “ミニ・シンフォスター2019”」―博士インターンシップ体験報告会―を開催
 - ・全国ダイバーシティネットワーク北海道ブロック会議シンポジウムを開催
 - ・高等教育研修センターにて研修会を開催
 - ・「ライフサイエンス 新技術説明会」を開催
- 5月号**
- ・北海道大学ディスティンディングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行
 - ・北大フロンティア基金
 - ・高額寄附者 佐々木俊夫氏に紺綬褒章が授与
 - ・新入留学生オリエンテーションを実施
 - ・「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙行
 - ・農業・食品産業技術総合研究機構との第1回連携協議会を開催
 - ・産業技術総合研究所との連絡協議会を開催
 - ・高エネルギー加速器機構との第9回連携協議会・シンポジウムを開催
 - ・本学研究者限定の「A-STEP説明会&相談会」を開催
 - ・「学際研究交流会&SDGs勉強会 in 北大」を開催
- 6月号**
- ・春の叙勲に本学から4氏
 - ・名誉教授称号授与式の挙行
 - ・馬渡駿介名誉教授が「第29回南方熊楠賞」を受賞
 - ・ロシアモスクワオフィスを開設
 - ・国立大学法人等情報化連絡協議会を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・令和元年度新渡戸カレッジ入校式を挙行
 - ・南アフリカのプレトリアで「日本留学フェア」を開催
 - ・タイ首相府予算局一行が本学で研修会を開催
 - ・春のガレージセールを開催
 - ・北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙行
 - ・JAグループ北海道との第3回連携協議会を開催
 - ・札幌キャンパスで第16回「キャンパス・クリーン・デー」を実施
 - ・高等教育研修センターにて研修会を開催
- 7月号**
- ・岩見沢市・NTTグループ3社と産官学連携協定を締結
 - ・北海道大学北米ポートランドオフィスを開設
 - ・北海道大学アンバサダー・パートナー（米国）委嘱状交付式を開催
 - ・北海道大学アンバサダー & 海外同窓会長ミーティングを開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・国際共同教育プログラム説明会を開催
 - ・令和元年度北海道大学宮澤記念賞授与式を挙行
 - ・日本留学海外拠点連携推進事業主催日本留学フェア（於ロシア連邦・ユジノサハリンスク）を開催
 - ・「第4回 北海道大学フィンランドデイ みんなで夏至祭を楽しもう！」を開催
 - ・独立行政法人日本学術振興会 平成30年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から5名が選出
 - ・化学物質取扱講習会を開催
 - ・高等教育研修センターにて研修会を開催
- 8月号**
- ・ASEANハノイオフィス開設調印式を開催
 - ・令和元年度第1回北海道地区国立大学等災害連絡協議会を開催
 - ・事務職員を対象に免震体験会を実施
 - ・「北海道大学 緑のピアガーデン2019」「北海道大学 緑のジギスカンWine&Beer 2019」を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・北大フロンティア基金「秋の特別キャンペーン」のお知らせ
 - ・成瀬澄子氏に紺綬褒章が授与

- ・医療法人社団京愛会に紺綬褒章が授与
- ・2019年度北海道大学公開講座「いま感じる、生かす、見つめなおす スポーツの力」が終了
- ・2019年度春季国際交流会～たすけあい、Cooperation～を開催
- ・令和元年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行
- ・令和元年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行
- ・「ホリデーイン日高2019」を開催
- ・「北海道大学入試改革フォーラム2019」を開催
- ・令和元年度北海道大学入試説明会を実施
- ・国家公務員総合職採用試験 2次試験直前対策会を開催
- ・科学研究費助成事業実務担当者向け説明会を開催
- ・札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施
- ・DEMOLA HOKKAIDO 1stバッチが終了
- ・「製薬企業5社合同 研究公募説明会&面談会」を開催
- ・ハルトプライズ地域予選において、日本勢で初めて優勝した「AQUAMOU（アクアモウ）」チームの優勝報告会と壮行会を実施
- ・「第1回ファーマラボ EXPO アカデミックフォーラム」に出展
- ・中学生対象「AIとデータサイエンスを知って親しむ講義×体感イベント」開催
- ・高等教育研修センターにて研修会を開催
- ・令和元年度第一回サステイナブルキャンパス推進会議を開催
- ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションが第7回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催
- ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）ソフトマターグローバルステーションが国際ミニシンポジウムを開催
- ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）食水土資源グローバルステーション（GSF）が「世界の食資源システムにおける生物多様性に関する国際シンポジウム」を開催

9月号

- ・札幌キャンパスを駆け抜ける－北海道マラソン2019－
- ・令和元年度オープンキャンパスを開催
- ・「北海道大学進学相談会」を東京で開催
- ・令和元年度事務局防災研修（クロスロード研修）を開催
- ・教育関係共同利用拠点に本学の2拠点が再認定
- ・北大フロンティア基金
- ・「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業に21名の研究者が参加
- ・アフリカ地域持続可能な開発目標センター ベライ総裁が本学に来訪
- ・令和元年度教員免許状更新講習を開催
- ・新渡戸カレッジ基礎・オーナーズプログラム大学院教育コース 2019年度第1回メンターフォーラムを開催
- ・令和元年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－被表彰者の決定
- ・令和元年度小島三司奨学金受給者の決定
- ・「イノベーション・ジャパン2019」に出展
- ・情報セキュリティセミナーを開催
- ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション（GSB）主催の「ビッグデータ・サイバーセキュリティ・IoTに関する国際シンポジウム」を開催
- ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第7回国際シンポジウムを開催
- ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第2回放射線生物サマースクール及び第6回医学物理サマースクールを開催

10月号

- ・北海道大学ホームカミングデー2019を開催
 - ・総務企画部広報課
歓迎式典・記念講演会
 - ・文学部・教育学部・法学部・経済学部（各同窓会）
文学部・教育学部・法学部・経済学部合同企画 公開講演会、同窓会総会、懇親会
 - ・理学院・理学研究院・理学部、生命科学院・先端生命科学研究院
理学部ホームカミングデー 理学部企画、同窓会総会、学科訪問、北海道大学ライフサイエンスフォーラム2019、理学部&同窓会交流会
 - ・医学研究院・医学部
北海道大学医学部ホームカミングデー フラテ祭2019
 - ・情報科学院・情報科学研究院
北楡会・北海道大学情報系交流会（母校交流会）
 - ・薬学研究院・薬学部
薬学部生涯教育特別講座秋季講演会、薬学部同窓会総会、交流会
 - ・工学院・工学研究院・工学部
工学研究院イノベーションフォーラム2019、北工会サークル展示、同窓生向け講演会、同窓生との懇親会

- ・農学院・農学研究院・農学部
市民公開・農学特別講演会「農と食が創る持続的な社会」、農業経済学科100周年記念シンポジウム「北大農経の100年－回顧と展望－」
- ・獣医学院・獣医学研究院・獣医学部
獣医学部同窓会令和元年度評議員会、通常総会、新評議員会・新理事会、フォーラム・交流会、懇親会
- ・水産科学研究院・水産科学院・水産学部、北水同窓会
水産学部卒業生・在校生のつどい～講演会、懇親会～
- ・環境科学院・環境科学同窓会
松野環境科学賞授賞式・修了生による講演会、コース・研究室紹介パネル展示、懇親会
- ・国際広報メディア・観光学院
ホームカミングデー @IMCTS 修了生meet在学学生2019
- ・保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科
保健科学研究院ホームカミングデー 分野紹介・講演会
- ・附属図書館
古本募金強化週間
- ・北方生物圏フィールド科学センター
植物園の縦覧見学、「北大農場」ミニツアー
- ・総合博物館
北大ミュージアムクラブMouseionによる展示解説
- ・大学文書館
特別展示「北大生の御用達」——新聞広告あれこれ1926－1945」、特別展示「“北大紛争”からの50年(1)——“北大紛争”とは」、企画展示「北大における女性自学から男女共学へ——新制大学70年」、常設展示「北大生の群像」・「札幌農学校遊戯会」・「新渡戸稲造と遠友夜学校」
- ・アドミッションセンター・北大キャンパスビジットプロジェクト
キャンパスツアー —現役北大生とめぐるキャンパス今昔—
- ・北海道大学校友会エルム
OB・OG講演会及び在学学生との懇談会、保護者会員懇談会・キャンパスツアー
- ・総務企画部広報課・校友会エルム
円満な相続の実現のために
- ・ほっかいどう同窓会
ランチパーティー
- ・一般社団法人恵迪寮同窓会
大寮歌祭in札幌、文化講演会
- ・株式会社セコマと「災害時における応急生活物資の供給等に関する協定」を締結
- ・北海道大学生協同組合と「災害時における相互協力に関する協定」を締結
- ・避難所運営訓練（避難所運営ゲーム北海道版）を開催
- ・北大フロンティア基金
- ・北大フロンティア基金 寄附者懇談会を開催
- ・鈴木なみえ氏に紺綬褒章が授与
- ・Integrated Science Program (ISP) 入学式を挙行
- ・Science Lecture 2019「その危険、観察してみる?～蚊、マダニを覗いて学ぶ感染症研究の最前線～」を開催
- ・高等教育研修センターにて研修会を開催
- ・令和元年度北海道大学インターンシップを実施
- ・「北海道大学短期留学プログラム (HUSTEP)」,「日本語・日本文化研修コース (日研コース)」及び「日本語研修コース」入学式を挙行
- ・第7回アフリカ開発会議 (TICAD7) サイドイベントへ参加
- ・第2回日露大学協会総会へ参加
- ・日本留学海外拠点連携推進事業主催日本留学フェア (於ロシア連邦・モスクワ) を開催
- ・ケニアの首都ナイロビで「日本留学フェア」を開催
- ・令和元年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催
- ・生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭を挙行
- ・「函館地区キャンパスマスタープラン策定に向けた意見交換会」を開催
- ・秋の叙勲に本学から5氏
- ・文部科学省「国立大学改革強化推進補助金 (国立大学経営改革促進事業)」に採択
- ・「北海道大学進学相談会」を大阪で開催
- ・笠原総長職務代理が第5回日本・インドネシア学長会議に出席
- ・長谷川理事・副学長が南開大学創立100周年式典・大学学長フォーラムに出席
- ・電子科学研究所が Academic Fantasia 2019で高校生に向けた講義を実施
- ・北大フロンティア基金
- ・第2回及び第3回情報セキュリティセミナーを開催
- ・新入留学生オリエンテーションを実施

11月号

- ・秋のガレッジセールを開催
 - ・留学生と札幌市民で行く防災バスツアーを実施
 - ・『大学生ものづくりビジネスアイデア「プレゼンテーション」』において、本学学生2グループが成果発表
 - ・国際連携研究教育局（GI-CoRE）食水土資源グローバルステーションが外部評価を実施
 - ・「WinGS Global Networking Award 2019」の受賞者を表彰
 - ・衛生管理者連絡会を開催
 - ・博士人材と企業の情報交換会 第39回「赤い糸会&緑の会」を開催
 - ・札幌国際プラザと「米国ポートランドを知るセミナー」を共催
- 12月号**
- ・令和元年度医学教育等関係業務功労者表彰に本学関係者から2氏
 - ・AO入試合格者の発表
 - ・国際総合入試合格者の発表
 - ・帰国子女入試合格者の発表
 - ・大学入試センター試験、本学一般入試個別学力検査等 実施体制等の決定
 - ・西井理事・副学長が第11回日中学長会議に出席
 - ・Japan PIO Summit 2019を開催
 - ・北大フロンティア基金
 - ・医療法人萬田記念病院に紺綬褒章が授与
 - ・北大フロンティア基金「平成30年台風21号及び北海道胆振東部地震『キャンパス復興支援』」実施事業報告
 - ・新渡戸カレッジ特別講演会「ビジネスによるSDGsの取組と、みなさんに引き継ぎたい世界」を開催
 - ・「北経連・四経連・道経連・経団連共催マッチング・ワークショップ」に参加
 - ・北海道大学総長奨励金給付証書並びに北海道大学私費外国人留学生特待プログラム留学生採用証書授与式を挙
 - ・高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催
 - ・情報基盤センターが「セキュリティ・ミニキャンプ in 北海道」を共催
 - ・研究成果を事業化へ「第9回おおた・研究開発フェア」に出展
 - ・博士人材と企業の情報交換会 第40回「赤い糸会&緑の会」を開催

部局ニュース

- 1月号**
- ・歯学研究院・歯学院・歯学部が国立陽明大学と部局間交流協定等を締結
 - ・洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会と相互協力協定を締結
 - ・平成30年度薬学部成績優秀賞授与式を挙
 - ・観光学高等研究センター公開講座「観光研究者が語る『私の旅』」が終了
 - ・スラブ・ユーラシア研究センター2018年度冬期国際シンポジウム「帝国・ブロック・連邦にそびえる言語 1918-2018」開催
 - ・公開FD講演会「SDGs勉強会in北大vol.001」を先端生命科学研究院・理学院で開催
 - ・生命科学院がアクティブラーニング形式の「Research Ethics Workshop for IGP students（研究倫理ワークショップ）」を開催
 - ・農学研究院長、国際食資源学院長等がカセサート大学農学部カンペンセン校を訪問
 - ・農学研究院長、国際食資源学院長等がシンガポール国立大学理学部を訪問
 - ・農学部学生の撮影写真が株式会社日本政策投資銀行「北海道ハンドブック」の表紙を飾る
 - ・工学系部局で「第2回こころの健康セミナー」を開催
 - ・低温科学研究所技術部で第8回技術部セミナーと第24回技術報告会を開催
 - ・高森 明氏の作品「カスベA」を水産科学研究院で受贈
 - ・函館キャンパスで防災訓練を実施
 - ・スポーツチャンバラ世界選手権大会で本学学生及び職員が活躍
 - ・北海道大学病院で「第59回ふれあいコンサート クリスマスの夕べ」を開催
 - ・第6回北極域オープンセミナーを開催
- 2月号**
- ・新学際大規模計算機システム運用開始記念式典を挙
 - ・大学の世界展開力強化事業（インド）の教育交流研究会を開催
 - ・経済学部と会計専門職大学院で特別講演会を開催
 - ・農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催
 - ・地球環境科学研究院・環境科学院でFD研修会を開催
 - ・国際食資源学院でFD研修会を開催
 - ・北海道大学病院で経営マインド育成講座を開催
 - ・附属図書館で講演会「情報発信の新たな展開に向けて～デジタルアーカイブの構築とIIIF～」を開催
 - ・植物園で「防火訓練」を実施
- 3月号**
- ・保健科学研究院が室蘭市と連携協定を締結
 - ・低温科学研究所がリスボン新大学化学及び生物技術研究所と部局間交流協定を締結
 - ・「データサイエンス公開シンポジウム」を開催
 - ・2019年度薬学実務実習開始セレモニーを挙
 - ・平成30年度薬学研究院FD講演会を開催
 - ・先端生命科学研究院でFDSD研修会「総会2018」を開催

- ・「マネジメント、企業オーナーを目指す人のための企業財務会計入門編」を開催
 - ・工学系部局で転倒防止活動への取組みを実施
 - ・水産科学院・水産学部主催「業界研究セミナー」を開催
 - ・平成30年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催
 - ・「本は脳を育てる」図書展示を開催
 - ・北大病院の医師が出演するラジオ番組が4月からスタート！
- 4月号**
- ・低温科学研究所がパリ天文台と部局間交流協定を締結
 - ・環境健康科学研究教育センターがワライラック大学公衆衛生学院と部局間交流協定を締結
 - ・第9回日本学術振興会育志賞－優秀な大学院博士課程学生の顕彰・支援－を情報科学研究科学生が受賞
 - ・北海道大学クラーク賞、函館市長賞及び水産科学院の各種表彰授賞式を挙行
 - ・水産学部キャンパス移行式及びくろしお賞授賞式を挙行
 - ・薬学研究院が「第13回薬学研究院研究発表会」を開催
 - ・モスクワ国立大学付属アジア・アフリカ諸国大学日本語学科長を文学研究科に招聘
 - ・学芸員リカレント教育プログラム（学藝リカプロ）平成30年度公開成果報告会
 - ・「北海道の防災研究を考える～広域複合災害センターへの展開～」を開催
 - ・経済学部でメンタルヘルス講演会を開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院で、留学生と中国語シニア学習者の共創による北大キャンパスVRガイド体験会を開催
 - ・植物園で小学生とその家族向けの公開講座「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催
 - ・北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催
 - ・環境健康科学研究教育センターが平成30年度後期「社会と健康」ディプロマ授与式を開催
 - ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第15期修了生に修了証書授与
 - ・北海道大学病院で新規採用者多職種合同歓迎会を開催
 - ・物質科学リーディングプログラム（ALP）1期生の修了式が行われました
 - ・附属図書館所蔵「ヤエンコロアイヌ文書」が国の重要文化財に指定
- 5月号**
- ・広域複合災害研究センター開所式を挙行
 - ・釜慶大学人文韓国プラス（HK+）事業団の文学研究院長を表敬訪問
 - ・公共政策大学院がアメリカ・ブラックコーカス訪問団との国際交流会を開催
 - ・公共政策大学院がタイ国立開発行政研究院公共経営大学院（NIDA）の訪問団に対し特別講義を実施
 - ・平成31年度理学院優秀研究奨励賞授与式を挙行
 - ・薬学部で新入生歓迎会を開催
 - ・植物園で夏期開園を開始
 - ・脳科学研究教育センター発達脳科学専攻の開講式を挙行
- 6月号**
- ・農学研究院・農学院・農学部・国際食資源学院でセミナー「北海道のワインと農業の未来について」を開催
 - ・タマサート大学法学部訪問団が法学研究科・法学部を来訪
 - ・公共政策大学院が駐日欧州連合全権大使バトリシア・フロア閣下の講演会を開催
 - ・情報科学研究院と国際連携研究教育局（GI-CoRE）ビッグデータ・サイバーセキュリティグローバルステーション（GSB）が公開講座「人工知能とビッグデータ」を開催
 - ・函館キャンパスで「春のキャンパス一斉清掃」を実施
 - ・植物園の夏期開園及び無料開園の実施
 - ・ウルトラマンゼロが北大病院小児科病棟の子どもたちと交流
 - ・看護週間－「看護の日のタベ」ほか様々な催しを実施
 - ・北海道日本ハムファイターズがひまわり分校の子どもたちと交流
- 7月号**
- ・低温科学研究所が韓国極地研究所と部局間交流協定を締結
 - ・文学院文化多様性論講座×北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（学藝リカプロ）公開シンポジウム「文化多様性は何をめざすのか－ミュージアムと考える、新時代」
 - ・経済学部成績優秀者表彰式を挙行
 - ・経済学部同窓会が経済学部生への就職支援講座を開催
 - ・文系部局合同FD研修会「本学への危機対応・業務継続について」を開催
 - ・概算要求事業「フォトエクサイトニクス研究拠点－光励起状態制御の予測と高度利用－」キックオフシンポジウムを開催
 - ・5研究所・センター合同で一般公開を開催
 - ・環境科学院で北大祭・研究施設公開「知っておきたい環境科学」を開催
 - ・薬学研究院で薬害をテーマにFD研修会開催
 - ・令和元年度薬学研究院FD講演会を開催
 - ・工学系部局で「第1回こころの研究セミナー」を開催
 - ・第50回記念時計台サロン「北大農学部の歴史と未来」を札幌市時計台ホールで開催
 - ・スラブ・ユーラシア研究センターで「樺太・千島 戦争体験の絵」を受贈
 - ・「北極基礎市民講座～北極の不思議 もっと知ろうその魅力～」を開催
- 8月号**
- ・人間知・脳・AI研究教育センター（CHAIN）を設置
 - ・札幌市、株式会社ニトリホールディングスと「みらいIT人材」育成のための連携協定を締結

- ・数理・データサイエンス教育研究センターに株式会社ニトリホールディングスによる寄附講座を設置
 - ・ソウル大学校法学専門大学院長等が法学研究科・法学部を来訪
 - ・医学部で創立100周年記念特別講演会を開催
 - ・北海道大学納骨堂慰霊式を挙行
 - ・獣医学部におけるEAEVE認証取得のための本審査の実施
 - ・先端生命科学研究院で教育改善改革FD研修会及び理学部オリエンテーション報告会を開催
 - ・第4回保健科学研究院国際シンポジウムを実施
 - ・薬学部で第22回生涯教育特別講座夏季講演会を開催
 - ・令和元年度第1回農学研究院FD研修会を開催
 - ・農学院で「留学生オリエンテーション」を開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院公開講座「ロシアとロシア人のアイデンティティ」が終了
 - ・スラブ・ユーラシア研究センター国際シンポジウム「民主主義の世界的危機？権威主義とポピュリズムの台頭と進化」を開催
 - ・総合博物館で学生企画・展示解説イベント「みんなの博物館物語－選ぶ・語る・描く－」を開催
 - ・学生によるミュージアムグッズの企画開発
 - ・国立東華大学（台湾）との国際合同実習「International training course of ecosystem and environment science」を開催
 - ・静内研究牧場の短角牛肉を販売
 - ・北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
 - ・北海道大学病院で「第60回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施
 - ・フィンランドをテーマとした図書展示を開催
 - ・医学部附属医院薬局長酒井隆吉、農学博士酒井隆太郎の関係資料を大学文書館で受贈
 - ・中谷宇吉郎書画を大学文書館で受贈
- 9月号**
- ・法学研究科・附属高等法政教育研究センター公開講座「外国人の流入と日本社会の変容」が終了
 - ・サマーセミナー「最新の知的財産訴訟における実務的課題—著作権・不正競争・意匠・商標編—」を開催
 - ・地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）セミナーを開催
 - ・会計専門職大学院で日本内部監査協会と第12回共催セミナーを開催
 - ・医学部が北海道大学医学部・読売新聞連携講座「中学生のための医療体験・外科手術シミュレーション」を開催
 - ・薬学研究院が「第14回薬学研究院研究発表会」を開催
 - ・工学研究院等安全衛生管理室で企業等見学研修会を実施
 - ・国際広報メディア・観光学院がフィンランド・ヘルシンキ大学及び豪・メルボルン大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催
 - ・公共政策大学院が「地方議員・地方公務員のためのサマースクール」を開催－「北海道における地域防災力向上に向けた課題と対応」について討議－
 - ・電子科学研究所と創成研究機構グローバルファシリティセンターが共催で技術職員向けSD研修を開催
 - ・北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション白尻水産実験所竣工披露記念式典・祝賀会を挙行
 - ・北大農場公開2019「未来農業ロボットトラクタ」を開催
 - ・北方生物圏フィールド科学センター植物園で小学生向け公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」を実施
 - ・「物理」「数学」「統計学」「化学」入門図書展示を開催
 - ・「北極基礎市民講座～北極の不思議 もっと知ろうその魅力～」第2回講座を開催
 - ・1960年代学生資料を大学文書館で受贈
- 10月号**
- ・北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（学藝リカプロ）公開イベント「文化拠点とまちづくり」を開催
 - ・教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2019（夏季北大プログラム）を開催
 - ・法学研究科FD研修を開催
 - ・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターセミナーを開催
 - ・先端生命科学研究院FD研修「大学評価におけるTOP10%論文の重要性」を実施
 - ・医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
 - ・薬学研究院・薬学部・生命科学院が国立陽明大学薬物科学院（台湾）と部局間交流協定を締結
 - ・薬学研究院が「The 5th Japan-Taiwan Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences」を共催
 - ・令和元年度 大学院地球環境科学研究院 公開講座『生物の「変化」：理由、メカニズム、そして影響』を終了
 - ・物質科学リーディングプログラム 新プログラム生8名を採用
 - ・国際食資源学院と農学研究院がミャンマー・パテイン大学とInternational Joint Symposiumを開催
 - ・水産科学研究院が標津町および標津サーモン科学館と連携協定を締結
 - ・水産科学研究院で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」「これが意外とムズカシイ！海岸動物（ヤドカリ、巻貝、クラゲ）社会関係」を開催
 - ・令和元年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス！」が終了
 - ・北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催
 - ・北海道大学病院で災害医療訓練を実施
 - ・バスケットボール部関係資料を大学文書館で受贈
- 11月号**
- ・医学部が創立100周年記念事業を挙行
 - ・教育学部創立70周年記念式典等を挙行
 - ・モスクワ国立大学附属アジア・アフリカ諸国大学日本語学科ナタリア・クルネタ助教授を文学研究科に招聘

- ・法学研究科・法学部・公共政策大学院で留学生パーティーを開催
- ・公共政策大学院が国際フェロー「ナルワン・プログラム」を実施—台湾外交部, 台湾日本関係協会等を訪問—
- ・公共政策大学院が「日韓市民社会・ジャーナリスト対話：未来につなげるダイアログ」を開催
- ・経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでシンポジウムを開催
- ・経済学研究院・経済学院・経済学部で外国人留学生懇親会を開催
- ・動物慰霊式を挙行
- ・技術部による理学部共同利用施設説明会2019を開催
- ・ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点が「NoMaps釧路・根室」を共催
- ・ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点が「第2回 防災技術イノベーション研究会Robust BOSAIシンポジウム」を開催
- ・保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催
- ・国際食資源学院でFD研修会を開催
- ・「平成30年北海道胆振東部地震を振り返り、今後の減災・復興を考える」シンポジウム・現地見学会を開催
- ・函館キャンパスで「秋のキャンパス一斉清掃」を実施
- ・メディア・コミュニケーション研究院公開講座「観光とメディアの新たな出会い」が終了
- ・消防訓練・防災訓練を実施
- ・「北極基礎市民講座～北極の不思議 もっと知ろうその魅力～」第3回を開催
- ・環境健康科学研究教育センターが市民講演会「SDGs達成に向けた私たちの取り組み」を開催
- ・「脳科学研究教育センター合宿研修」の開催
- ・天塩研究林で「最北のエゾシカ調査ツアー」を開催
- ・生物生産研究農場で「畜魂祭」を挙行
- ・和歌山研究林で一般公開事業「和歌山研究林の歴史的建造物と照葉樹天然林」を開催
- ・和歌山研究林でアートプロジェクト「森のちからXI・森の中へ」による作品制作・展示を実施
- 12月号
 - ・人間知・脳・AI研究教育センター設立記念シンポジウム ～意識の科学の冒険——哲学・脳科学・AI・ロボット研究のクロスオーバー～を開催
 - ・法学部同窓会寄附講演会を開催
 - ・経済学部が公認会計士・監査審査会会長の特別講演会を開催
 - ・経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催
 - ・医理工学院で第3回学生研究発表会及び第3回企業との交流会を開催
 - ・第14回医学研究院連携研究センター研究成果発表会を開催
 - ・スイス連邦工科大学との学術交流シンポジウムを開催
 - ・工学系部局で救急救命講習会を実施
 - ・工学系部局で安全衛生管理講演会を開催
 - ・農学研究院で第13回Sapporo Alumni Lecturesを開催
 - ・第16回北海道大学病院指導医のための教育ワークショップ（指導医講習会）を開催
 - ・川島成道氏と佐藤勝重氏による「北大病院ミニコンサート」を開催
 - ・北海道大学病院で令和元年度地域連携懇話会を開催
 - ・メディア・コミュニケーション研究院公開講座「軍の記憶と戦後」が終了
 - ・国際シンポジウム・講演会「美麗島事件と光州事件からみる『アジア連帯』」を開催
 - ・美瑛市との共同プロジェクト「やさしい日本語を使った美瑛市民との交流会」を実施
 - ・令和元年度低温科学研究所公開講座「広がる低温の魅力～低温科学の最前線～」が終了
 - ・理学研究院で消防訓練を実施
 - ・薬学研究院・薬学部で「実験動物慰霊祭」を挙行
 - ・スポーツチャンバラ世界選手権大会で本学職員及び学生が活躍
 - ・北方生物圏フィールド科学センターで「ひらめき☆とさめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催
 - ・天塩研究林で「ヒグマしり隊！～問寒別のヒグマを知ろう～」を開催
 - ・和田修一氏の旧蔵資料を大学文書館で受贈

お知らせ

- 1月号
 - ・輸出貿易管理令別表第一の一部改正に本学教員が寄与
- 2月号
 - ・過半数代表候補者の決定
- 4月号
 - ・平成31年度人間ドッグ・特定健康診査の実施について
- 5月号
 - ・北海道地区福祉共同事業契約宿泊施設の開設
- 6月号
 - ・「北海道大学 緑のビアガーデン2019」「北海道大学 緑のジギスカン Wine&Beer 2019」を開催
- 7月号
 - ・「北海道大学の役職員の給与等の水準（平成30年度）」の概要について
 - ・平成30年度北海道大学外国人留学生後援会の決算
 - ・新たな「オープンアクセス方針」を策定
 - ・夏季期間における工学系建物の閉鎖の実施について
- 8月号
 - ・被扶養者の要件の確認
- 10月号
 - ・医療費通知事業の実施

寄稿等

3月号 ・定年退職を迎えるにあたって

博士学位記授与

1月号 ・課程博士25人, 論文博士3人
 4月号 ・課程博士299人, 論文博士14人
 7月号 ・課程博士16人, 論文博士0人
 10月号 ・課程博士105人, 論文博士4人

同窓会との交流

4月号 ・函館同窓会「総会及び懇親会」

レクリエーション

1月号 ・平成30年度学内教職員フットサル大会の開催
 3月号 ・昭和新山国際雪合戦大会に今年も出場
 8月号 ・教職員テニス大会の開催
 　　　・学内教職員バドミントン大会（個人戦）の開催
 9月号 ・令和元年 第49回 札幌社会人サッカーリーグに出場
 　　　・学内教職員ソフトボール大会の開催
 　　　・令和元年度学内バレーボール大会の開催
 　　　・教職員テニス大会の開催
 10月号 ・教職員卓球大会の開催 ー団体戦ー
 　　　・教職員テニス大会の開催
 11月号 ・教職員テニス大会の開催
 　　　・令和元年度学内教職員フットサル大会を開催

諸会議の開催状況（平成30年12月～令和元年11月分掲載）

学内規程

1月号 ・国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則
 　　　・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
 　　　・北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
 　　　・北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター規程の一部を改正する規程
 　　　・北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程
 2月号 ・国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学政府調達規程の一部を改正する規程
 3月号 ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則等の一部を改正する規則
 　　　・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則
 　　　・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則
 　　　・国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則
 　　　・国立大学法人北海道大学役員給与規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学における教員のクロスアポイントメントの適用に関する規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程の一部を改正する規程
 4月号 ・国立大学法人北海道大学災害等危機対策規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
 　　　・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学経営協議会規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学評価規程の一部を改正する規程
 　　　・北海道大学教務委員会規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学における研究活動上の不正行為に関する規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程等の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学固定資産管理規程の一部を改正する規程
 　　　・国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則
 　　　・北海道大学観光学高等研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程
 　　　・北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

- ・北海道大学国際連携研究教育局運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学アドミッションセンター企画運営会議規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構日本語・日本文化研修コース規程等の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学産学・地域協働推進機構規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学産学・地域協働推進機構知的財産委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における北大発ベンチャー称号授与規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学学生委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学情報セキュリティ委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学動物実験委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学学生相談総合センター運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学保健センター運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学埋蔵文化財調査センター運営委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学遺伝子組換え実験等安全委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学放射性同位元素等管理委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学化学物質等管理委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学特定認定再生医療等委員会規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学通則の一部を改正する規則
- ・北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院通則の一部を改正する規則
- ・北海道大学学位規程の一部を改正する規程
- ・教育職員免許状授与の所要資格の取得に関する規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学履修証明プログラムに関する規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学NITOB教育システム運営会議規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学専門横断科目規程
- ・北海道大学インテグレイテッドサイエンスプログラム規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学卓越大学院プログラム推進会議規程
- ・北海道大学大学院One Healthフロンティア卓越大学院プログラム規程
- ・北海道大学大学院One Healthフロンティア卓越大学院プログラム運営委員会規程
- ・北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学船員労働時間、休日及び休暇規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学における研究費の不正使用に関する規程の全部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学放射線障害予防規程の全部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学エックス線障害予防規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学法人文書管理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学旅費規則の一部を改正する規則
- ・国立大学法人北海道大学旅費規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学百年記念会館規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学学術交流会館規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
- ・国立大学法人北海道大学ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学文学部規程の一部を改正する規程

- ・北海道大学法学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学理学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学医学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学歯学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学工学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学農学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学水産学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院水産科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院環境科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院教育学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院総合化学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院経済学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院医学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院歯学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院獣医学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院医理工学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院国際感染症学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院公共政策学教育部規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院農学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院国際食資源学院規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学大学院文学院規程
- ・北海道大学大学院文学研究院規程
- ・北海道大学大学院情報科学院規程
- ・北海道大学大学院情報科学研究院規程
- ・北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター規程の一部を改正する規程
- ・北海道大学広域複合災害研究センター規程
- ・北海道大学広域複合災害研究センター運営委員会
- ・北海道大学学生相談総合センター規程の一部を改正する規程
- 5月号
 - ・国立大学法人北海道大学東京オフィス利用規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学病理解剖受託規程等の一部を改正する規程
- 6月号
 - ・国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学大学連携研究設備ネットワーク設備利用規程
 - ・国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学環境健康科学研究教育センター規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター規程の一部を改正する規程
- 7月号
 - ・国立大学法人北海道大学日時給職員の特別の有給休暇に関する規程
 - ・北海道大学観光学高等研究センター規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
 - ・北海道大学インテグレイテッドサイエンスプログラム規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則
 - ・国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学役職員倫理規程等の一部を改正する規程
 - ・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

	・国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
	・北海道大学アイヌ・先住民研究センター規程の一部を改正する規程
	・北海道大学人間知・脳・AI研究教育センター規程
	・北海道大学人間知・脳・AI研究教育センター運営委員会規程
8月号	・国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程
	・北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター規程の一部を改正する規程
9月号	・国立大学法人北海道大学創成研究機構規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学放射線障害予防規程の一部を改正する規程
10月号	・北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学情報公開・個人情報保護審査委員会規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学における独立行政法人等非識別加工情報の提供等に関する規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学臨床研究審査委員会規程の一部を改正する規程
	・北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程
	・北海道大学病理解剖受託規程の一部を改正する規程
	・北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程
	・北海道大学受託研究員規程の一部を改正する規程
	・北海道大学私学研修員等受入れ規程の一部を改正する規程
	・北海道大学外国人受託研修員規程の一部を改正する規程
	・北海道大学病院受託実習生受入れ規程の一部を改正する規程
	・北海道大学病院研修生受入れ規程の一部を改正する規程
	・北海道大学研修登録医受入れ規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学外国人研究者及び外国人留学生借上宿舍等規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程
	・北海道大学病院諸料金規程の一部を改正する規程
	・北海道大学水産学部附属練習船利用規程の一部を改正する規程
	・北海道大学大学院医学研究院死亡時画像診断受託規程の一部を改正する規程
	・北海道大学総合博物館施設利用規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学における共同プロジェクト拠点の認定等に関する規程の一部を改正する規程
	・北海道大学インテグレイテッドサイエンスプログラム規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学職員休職規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学職員兼業規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学利益相反マネジメント規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学兼業審査会規程を廃止する規程
	・国立大学法人北海道大学遺伝子組換え実験等安全管理規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学個人情報管理委員会規程
	・北海道大学における聴講生等の検定料等の額に関する規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学子どもの園保育園規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学原子・分子の顕微イメージングプラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程
	・国立大学法人北海道大学大学連携研究設備ネットワーク設備利用規程の一部を改正する規程
	・北海道大学理学部規程の一部を改正する規程
11月号	・国立大学法人北海道大学安全保障輸出管理規程の一部を改正する規程
12月号	・北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程
	・北海道大学病院規程の一部を改正する規程

研 修

1月号	・平成30年度北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員SD研修
3月号	・平成30年度国立大学法人北海道大学会計職員アドバンス研修「伝達力研修」
5月号	・平成31年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）
	・平成31年度法人文書管理に関する研修会（初任職員向け）
8月号	・令和元年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修 初級編）
9月号	・令和元年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修
10月号	・令和元年度北海道地区国立大学法人等中堅技術職員研修
11月号	・令和元年度Excelを用いたテキストデータ取扱講座

- ・令和元年度アドバイラストレータ研修
- ・令和元年度北海道地区国立大学法人等会計基準研修
- 12月号 令和元年度北海道大学教務事務実務研修

表 敬 訪 問

- 1月号 全北大学校（韓国）Lee Nam Ho学長
- 2月号 高麗大学校（韓国）Jaeho Yeom学長
- ・オウル大学（フィンランド）Helka-Liisa Hentilä副学長
- 3月号 ロシア極東国立農業大学 Aleksandr Senchik副学長
- 5月号 広州大学（中国）Guo Xingpeng副学長
- 6月号 タマサート大学（タイ）Gasinee Witoonchart学長
- ・駐日欧州連合（EU）代表部代表Patricia Flor大使
- ・包括的核実験禁止条約機関（CTBTO）Nurcan Meral Özel国際監視制度局長
- 9月号 オックスフォード大学（イギリス）Sarah Rowland-Jones教授、Simon J Davis教授
- ・アフリカ地域持続可能な開発目標センター（SDGC/A）Belay Begashaw総裁
- 10月号 Einar Gunnarsson北極評議会高級北極実務者会合議長
- ・駐日ハンガリー共和国大使館 Hortenzia Hosszú科学技術担当参事官
- ・ハロン大学（ベトナム）Tran Trung Vy副学長
- ・在ザンビア日本国大使館 水内龍太 特命全権大使
- 11月号 コロラド州立大学（アメリカ）Mark Stetter獣医学・生物医科学部学部長
- ・国家留学基金管理委员会（中国）Li Qing副秘書長
- 12月号 駐日チェコ共和国大使館 Martin Tomčo大使
- ・オウル大学（フィンランド）Jouko Niinimäki学長、ラップランド大学（フィンランド）Mauri Ylä-Kotola学長

計 報

- 2月号 名誉教授 前田 辰昭 氏
- ・名誉教授 斎藤 勝政 氏
- 5月号 名誉教授 但野 利秋 氏
- ・名誉教授 服部 昭仁 氏
- ・名誉教授 飯澤 理一郎 氏
- 6月号 名誉教授 岸 力 氏
- ・名誉教授 金成 誠一氏
- 10月号 名誉教授 岡島 秀夫 氏
- 12月号 教授 秋山 友宏 氏
- ・名誉教授 木村 汎 氏

資 料

- 4月号 平成31年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
- ・平成31年度入学者の都道府県分布及び地域比率
- 5月号 役職員数（令和元年5月1日現在）
- 6月号 在籍学生数（令和元年5月1日現在）
- ・令和元年度外国人留学生数（令和元年5月1日現在）
- ・令和元年度国別外国人留学生数（令和元年5月1日現在）
- ・平成30年度卒業・修了者の就職等状況一覧
- 11月号 役職員数（令和元年10月1日現在）
- ・在籍学生数（令和元年10月1日現在）
- ・広報誌等一覧（令和元年10月調査）
- 12月号 令和元年度外国人留学生数（令和元年11月1日現在）
- ・令和元年度国別外国人留学生数（令和元年11月1日現在）
- ・北大時報掲載記事事項別一覧（令和元年掲載分）

* 北大時報11月号掲載資料「広報誌一覧」に、誤植がありました。

お詫び申し上げます。なお、本学ホームページには修正版を掲載しております。

編集メモ

●北大公式PV「北大秋景色」を公開いたしました。四季折々の本学の様子を紹介してきた冬景色、春景色、夏景色に続く第4弾として、札幌キャンパスや苫小牧研究林の紅葉、研究の様子、課外活動中の学生の様子など、本学の様々な秋をお楽しみいただけます。ぜひご覧ください。

◆<https://www.hokudai.ac.jp/movie/>



「北大秋景色」の演奏は北海道大学交響楽団の団員の皆様です。出演もしています。

●リテラポブリや北大時報をご覧くださいありがとうございます。本年も皆様のご協力により、北大時報を12号発行することができました。お礼申し上げます。令和2年も、たくさんのご投稿お待ちしております。バックナンバーはホームページからご覧いただけます。

◆<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>





2018.12.8 丸瀬布森林公園いこいの森（遠軽町）

北の鉄道風景 81 雪晴れの森を駆ける

これまで何度か取り上げてきた、遠軽町丸瀬布森林公園いこいの森において動態保存されている森林鉄道蒸気機関車・雨宮21号。この機関車が運行されるのは、4月末の大型連休初日から10月末までの半年間であって、冬期間には運行されない。しかし、同機関車の雪中運行が稀に行われることがある。写

真は丁度1年前の12月初旬、雨宮21号の製造90周年を記念して実施された雪中運行イベントである。イベント当日は天候に恵まれて、雪晴れの森を森林鉄道蒸気機関車が駆ける光景を目にすることができた。

情報科学研究院 准教授 山本 学

北大時報 ⑫ No.789 令和元年12月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>